



MOTIF-RACK XSエディター VST マニュアル

目次

MOTIF-RACK XSエディター VSTとは	2
MOTIF-RACK XSエディター VSTのデータ構成	3
MOTIF-RACK XSエディター VSTの起動	4
MOTIF-RACK XSエディター VSTの操作の流れ	7
各部の名称と機能	13
MOTIF-RACK XSエディター VSTの基本操作	36
メニュー	38
トラブルシューティング	54

- 市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- このソフトウェアおよびマニュアルの著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- このファイルに掲載されている画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合があります。
- 「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、このファイルに掲載されている会社名および商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
- このマニュアルファイル内の「赤色」の文字をクリックすると、関連する項目にジャンプします。

このマニュアルは、お客様がWindows/Macintoshの基本的な操作方法について十分おわかりいただいていることを前提に書かれています。Windows/Macintoshの操作方法については、Windows/Macintoshに付属のマニュアルをご参照ください。MOTIF-RACK XSエディター VSTを使用するために必要なコンピューター環境、機器の接続、MOTIF-RACK XSエディター VSTのインストールについては、別冊のインストールガイドおよびご使用のMIDI機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

MOTIF-RACK XSエディター VSTとは

MOTIF-RACK XSエディター VSTは、MOTIF-RACK XSのボイスまたはマルチ音源の設定を、コンピューター画面を使って視覚的に確認しながら編集することができるソフトウェアです。MOTIF-RACK XS本体のパラメーターをコンピューターからリモートで編集したり、MOTIF-RACK XS内のデータをコンピューターに保存したりできます。このMOTIF-RACK XSエディター VSTは、Steinberg社が提唱する「VST3テクノロジー」に対応しており、Cubaseシリーズ4.5以降(以下DAWアプリケーション)上でVST3プラグインとして利用できます。MOTIF-RACK XSエディター VSTは、DAWアプリケーション上では他のソフトウェアVSTインストゥルメントと同様の操作で使えますので、編集した内容をプロジェクトファイルに保存したり、以前保存した音色を他のプロジェクトで利用したりもできます。また、Cubase 4.5以降でMOTIF-RACK XSエディター VSTを使用する場合は、MOTIF-RACK XSのボイスデータを、Cubaseのメディアベイ内で扱えますので、メディアベイからMOTIF-RACK XSのボイスの検索、視聴、再生も可能です。このように、MOTIF-RACK XSエディター VSTを使用することで、ソフトウェアとハードウェアが統合された環境となります。



MOTIF-RACK XSエディター VSTのデータ構成

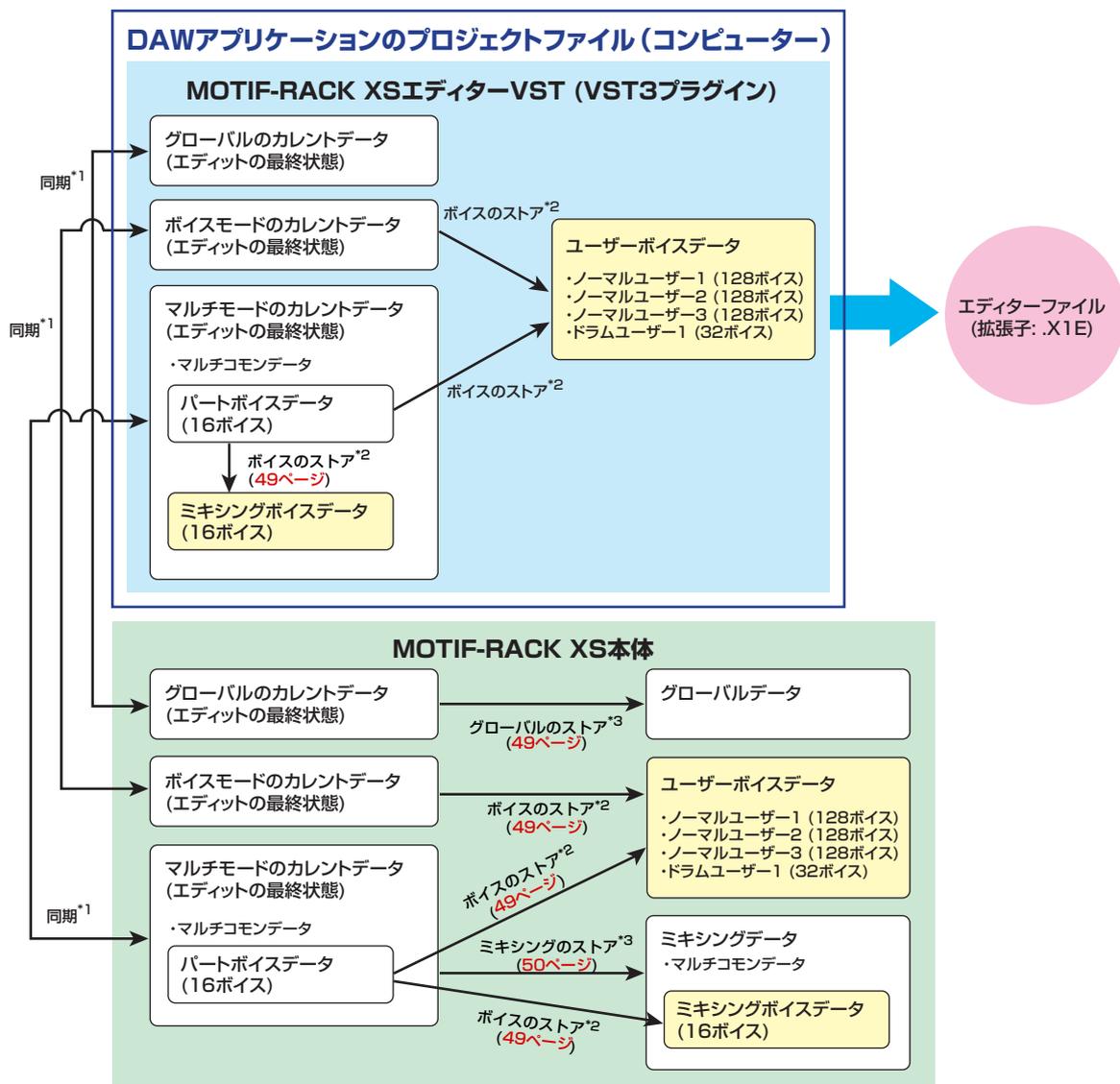
MOTIF-RACK XSエディター VSTでは、下記を1つのファイルとして保存できます。

- ・グローバルのカレントデータ(エディットの最終状態)
- ・ボイスモードのカレントデータ(エディットの最終状態)
- ・マルチモードのカレントデータ(ミキシングデータ、各パートでのボイスエディットの最終状態、ミキシングボイス×16)
- ・ユーザーボイスデータ(ノーマルユーザー×3、ドラムユーザー×1)

カレントデータとは、各パートのボイス設定やパン、ボリューム、エフェクトなどのミキシング設定だけでなく、各パートで最後に選択されていたボイスの、コモンエディットやエレメントエディットの最終状態も含んでいます。また、保存できるボイスバンクのうち、ミキシングボイスだけはカレントデータに属します。エディターでは各パートのノーマルボイスを、エレメントにまで踏み込んでエディットでき、またそのエディットした最終状態を、ユーザーボイスやミキシングボイスとして本体にストア(保存)しなくても、そのままファイルとして保存できます。したがって、保存したファイルをあとで再度読み込めば、エディットの最終状態をすぐに再現することができ、便利です。

NOTE MOTIF-RACK XSエディター VSTでは、ミキサー部の「G」列に表示されているパラメーターの一部と、パラメーターカテゴリー部の「Global Settings」のパラメーターを合わせて、「グローバルデータ」として扱っています。

MOTIF-RACK XSエディター VSTによって作られるデータの構成、MOTIF-RACK XS本体内部のメモリーでのデータ構成、および両者の関係については下図をご覧ください。



*1 コンピューターとMOTIF-RACK XS本体が適切に接続されていてオンラインの状態に設定されていれば、エディター側でエディットしても本体側でエディットしても設定された状態は同期します。

*2 エディター側でストア(保存)操作を行なうことで、実機側でもストアが行なわれます。

*3 グローバルデータとミキシングデータについては、エディター側でのストア(保存)操作により、MOTIF-RACK XS本体のメモリーにデータが保存されます。

MOTIF-RACK XSエディター VSTの起動

MOTIF-RACK XSエディター VSTのインストールガイドに従って、MOTIF-RACK XSエディター VSTやその他必要なソフトウェア、ドライバーなどをインストールします。コンピューターとMOTIF-RACK XSをUSBケーブルまたはIEEE1394ケーブルを用いて接続し、MOTIF-RACK XSのMIDIメッセージの入出力先を設定したあと、以下の操作でMOTIF-RACK XSエディター VSTを起動します。

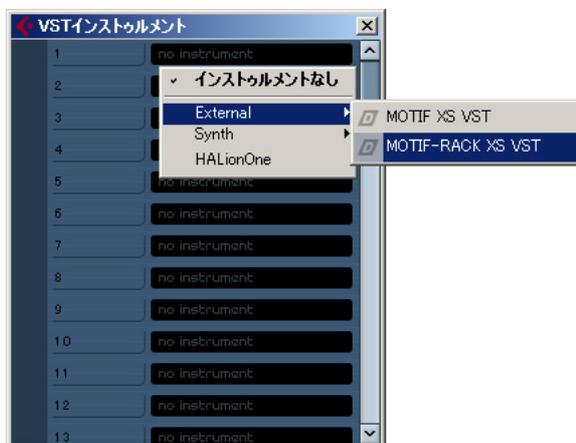
ここでは例としてCubase 4.5を使用して、IEEE1394 (FireWire)ケーブルで接続したときの起動方法を説明します。

NOTE MOTIF-RACK XSとコンピューターとの接続について詳しくは、「MOTIF-RACK XS取扱説明書」の「接続について」をご参照ください。

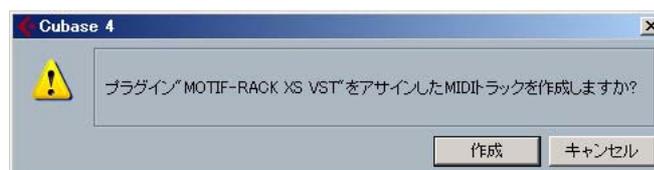
1. DAWアプリケーションの[デバイス]メニューから[VSTインストールメント]を開きます。



2. VSTインストールメントトラックのインストールメントスロットをクリックして、[External] → [MOTIF-RACK XS VST]を選択します。



3. 「プラグイン"MOTIF-RACK XS VST"をアサインしたMIDIトラックを作成しますか?」というメッセージが表示されますので、[作成]をクリックします。



MIDIトラックが新規に作成され、MOTIF-RACK XSエディター VSTが起動します。

4. VSTインストゥルメントトラックの、[e]ボタンの右横にある出力設定ボタンをクリックして、[全出力を有効]を選択します。



DAWアプリケーションのミキサーウィンドウにMOTIF-RACK XS1～8のバスが作成されます。

5. MOTIF-RACK XSエディター VSTの[ファイル]メニューから[エディター設定]を開きます。

6. Data Portの[mLAN/1394]にチェックを入れます。



7. mLAN Deviceで、「MOTIF-RACK XS」を選択します。



8. MIDI Outで「MOTIF-RACK XS」を選択します。

9. [OK]ボタンをクリックしてエディター設定画面を閉じます。

10. MOTIF-RACK XSエディター VSTの[ファイル]メニューから[VSTi設定]を開きます。

11. [Auto]ボタンをクリックします。オーディオポートが自動的に設定されます。

12. [OK]ボタンをクリックしてVSTi設定画面を閉じます。

13. MOTIF-RACK XSエディター VSTがオフラインの場合は、[OFFLINE]をクリックしてオンラインにします。

14. クイックセットアップの「MIDI」を[1]か[2]、「mLAN Monitor」を[With PC]に、それぞれ設定します。



- NOTE** クイックセットアップの「MIDI」は、DAWアプリケーションに、アルペジオ以外の演奏を録音する場合は[1]を、アルペジオも含めた演奏を録音する場合は[2]を選んでください。詳しくは、MOTIF-RACK XSの取扱説明書をご参照ください。
- NOTE** 手順5から手順12は、初回起動時に必要な設定です。以後はエディターに保存されますので、毎回設定する必要はありません。
- NOTE** MOTIF-RACK XSエディターVSTの起動方法は、他のVSTインストゥルメントと同様です。その他の起動方法については、お使いのDAWアプリケーションの取扱説明書をご参照ください。

MOTIF-RACK XSエディター VSTの操作の流れ

MOTIF-RACK XSエディター VSTの使い方には、決まった操作手順はありません。次のような操作の流れを参考に、目的に合ったエディット作業を行なってください。ここでは、ボイスモードでのボイスエディット、マルチモードでのミキシングエディットを順に行ない、エディットして作られたデータをMOTIF-RACK XS本体の内部メモリーにストア(保存)したり、エディットした最終状態をファイルとしてセーブ(保存)する流れを説明します。

NOTE Voice/Multi表示があらかじめ「Multi」になっている場合は手順1から、Voice/Multi表示があらかじめ「Voice」になっている場合は手順2から操作してください。

1. Voice/Multi (ボイス/マルチ)表示の「Voice」をクリックし、ボイスモードに切り替えます。
モードを切り替える前にONLINE/OFFLINE (オンライン/オフライン)表示がONLINEになっている場合は、この手順1の操作でAuto Sync画面が自動的に現われますので、手順3に進んでください。
2. ONLINE/OFFLINE (オンライン/オフライン)表示がOFFLINEになっている場合は、[OFFLINE]をクリックしてAuto Sync (オートシンク)画面を表示させます。
3. Auto Sync (オートシンク)画面では、Data Port部でMOTIF-RACK XS本体と通信するための入出力用ポートやデバイスナンバー、Auto Sync Setting部でグローバルデータ、カレントデータ、ユーザーボイスデータそれぞれの同期方向などを設定します。

データ同期の方向は、MOTIF-RACK XS本体のデータを元に編集をしたい場合、MOTIF-RACK XS本体から受信する方向に設定してください。コンピューター上に保存していたエディターのファイルを元に編集をしたい場合は、MOTIF-RACK XS本体に送信する方向に設定してください。設定の詳細は、「エディター設定」(41ページ)をご覧ください。



注意

Auto Sync (オートシンク)画面のGlobal (グローバル)、Current (カレント)、Voice (ボイス)をOnにし、その横にあるMOTIF-RACK XS本体のイラストの右横にあるボックスをオンにして[Start]ボタンをクリックすると、エディター上の各データがMOTIF-RACK XS本体に転送されます。これにより、MOTIF-RACK XS本体メモリー上の各データが、上書きで消されることになるのでご注意ください。MOTIF-RACK XS本体のデータを元に編集をしたい場合は、必ずコンピューターイラスト側のボックスをオンにしてください。

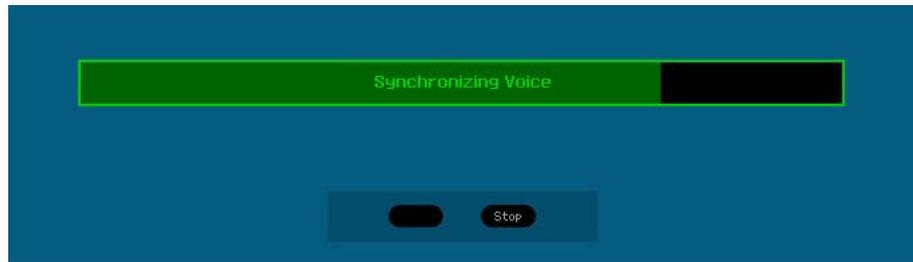


注意

データ同期の方向については、エディター上記画面での設定が適用されます。誤ってデータを失なうことがないように、データ同期の方向の設定はエディター上で確実に行ってください。

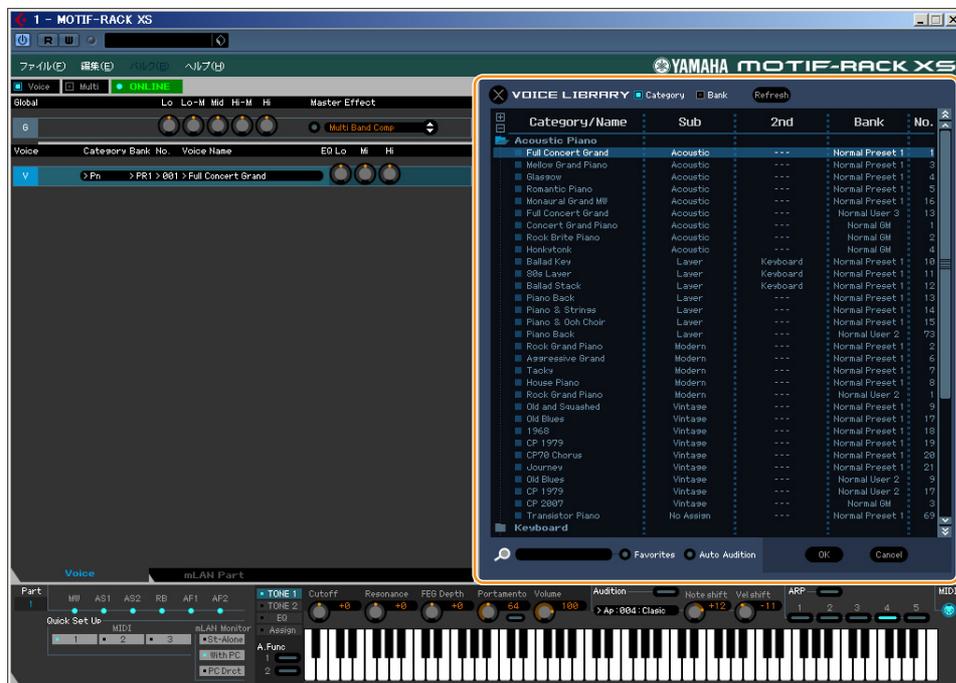
4. Auto Sync (オートシンク)画面で、[Start]ボタンをクリックします。

ポートが正しく設定されていれば、データ同期が始まります。完了すると自動的にAuto Sync画面が閉じ、エディターはONLINE状態になっています。ONLINE (オンライン)の状態とは、エディター上での設定変更がそのままMOTIF-RACK XS本体にも反映される、またはその逆にMOTIF-RACK XS本体上での設定変更がそのままエディター上にも反映される状態をいいます。



5. ボイスモードで、ボイスのエディットを行ないます。

5-1 Voice (ボイス)欄にある「V」の列の、バンク名またはボイス名のボックスをクリックすると、「VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)」が表示されます。



5-2 エディットしたいボイスをVOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)のリストから選択します。

エディットしたいボイスをクリックしたら、鍵盤イラストをクリックして音色を確認しましょう。

5-3 エディットしたいボイスが決まったら、そのボイス名をダブルクリックするか、画面右下にある[OK]をクリックして、VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)画面を閉じてください。

VOICE LIBRARY画面では、ボイス名をダブルクリックするか、画面右下にある[OK]ボタンをクリックすることで選択が確定し、画面自体も閉じます。ボイス選択をとりやめたい場合は、画面右下にある[Cancel] (キャンセル)か[X] (終了)ボタンをクリックしてください。VOICE LIBRARYが閉じられ、エディットの対象となるボイスも元に戻ります。



エディットの対象となるボイスを別のボイスに変更すると、それまでエディットしていたボイスの状態は消去されます。それまでにエディットしていたボイスを保存したい場合は、ストア(49ページ)を実行してからボイスを変更しましょう。

5-4 各種パラメーターの設定を行ない、ボイスをエディットします。

Voice (ボイス)欄のVの列にあるEQ、コーラス、リバーブなどのパラメーターをクリックして値を変更してみましょう。



音がどのように変わるかについては、画面下部にある鍵盤イラストをクリックして聞いてみましょう。



画面右端にあるパラメーターカテゴリー部(22ページ)のオープン/クローズボタン(🔊 ボタン)をクリックすると、詳細パラメーター部が開きます。詳細パラメーター部では、現在エディット中のボイスに対して、さらに細かいパラメーター設定ができます



6. 必要に応じて、エディットしたボイスを保存(ストア)します。

6-1 [編集]メニューの[ボイスのストア]を選択してストア画面(49ページ)を開きます。

6-2 以下のボイスバンクから保存するバンクを選択します。

- Normal User 1 (ノーマルユーザー 1)
- Normal User 2 (ノーマルユーザー 2)
- Normal User 3 (ノーマルユーザー 3)
- Drum User (ドラムユーザー)

NOTE ノーマルボイスをエディットしていた場合はノーマルユーザー 1~3がストア画面に、ドラムボイスをエディットしていた場合はドラムユーザーバンクがストア画面に表示されます。

6-3 選択したバンクを開き、保存したいナンバーを選択し、必要に応じてボイスネームを付けます。

6-4 [Store]ボタンをクリックして、エディットしたボイスを選択したバンクのナンバーに保存します。

ストアを実行することで、ボイスデータはエディター内部のユーザーバンクに保存され、さらに同期してMOTIF-RACK XS本体メモリーにあるユーザーバンクにも同様に保存されます。



ストアを実行することによりストア先のボイスデータが、MOTIF-RACK XSエディターVST内およびMOTIF-RACK XS本体メモリーとも書き換えられます。大切なボイスデータを間違えて消去することがないように、注意してストア先を選びましょう。



NOTE [編集]メニューの[グローバルのストア]を選択すれば、Global (グローバル)欄のG列の一部のパラメーターでエディットした内容をMOTIF-RACK XS本体に保存できます。

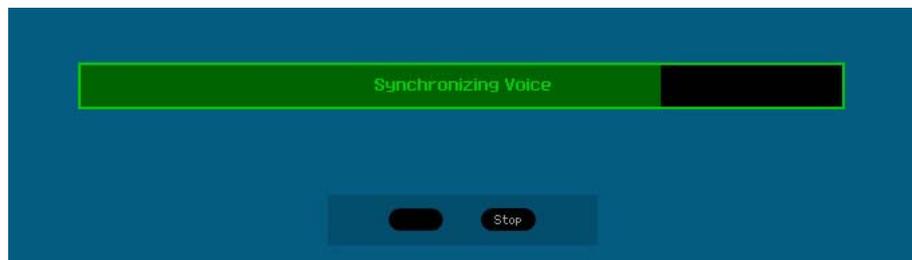
7. マルチのエディットを行ないます。

7-1 Voice/Multi (ボイス/マルチ)表示の「Multi」をクリックし、マルチモードに切り替えます。

オンラインの場合はAuto Sync画面が自動的に現れます。

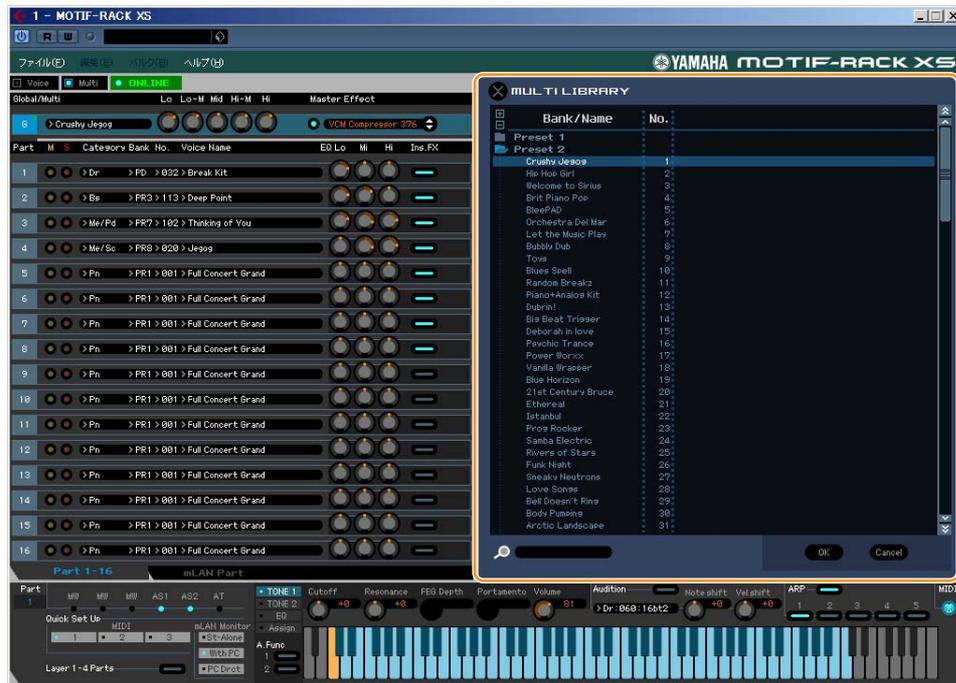
7-2 Auto Sync (オートシンク)画面で、[Start]ボタンをクリックします。

ポートが正しく設定されていれば、データ同期が始まります。完了すると自動的にAuto Sync画面が閉じます。



7-3 Global/Multi (グローバル/マルチ)欄にある「G」の列の左端にあるマルチ名のボックスをクリックすると、「MULTI LIBRARY (マルチライブラリー)」が表示されます。

MULTI LIBRARY (マルチライブラリー)には、MOTIF XSにプリセットされているパフォーマンスと同等のものが集められています。Part 1~4だけをオンにすることにより、MOTIF XSのパフォーマンスモードと同じような演奏/サウンドが楽しめます。パート1~4だけをオンにするには、画面左下に表示されている[Layer 1-4 Parts]の右側のボックスをクリックする方法がワンタッチで便利です。



7-4 マルチ音源設定を、MULTI LIBRARY (マルチライブラリー)のリストの中から選択します。

マルチ音源設定を選択すると、パート1~16のボイス割当などすべてのパラメーターが一度に設定されます。

7-5 各種パラメーターの設定を行ない、マルチや各パートに割り当てられているボイスをエディットします。

マルチライブラリーにある設定から変更をしたい場合は、パラメーターをエディットしましょう。Global/Multi (グローバル/マルチ)欄のGの列やPart (パート)欄の各パートの列にある、EQやエフェクトなどのパラメーターをクリックして値を変更してみましょう。



音がどのように変わるかについては、画面下部にある鍵盤イラストをクリックして聞いてみましょう。



画面右端にあるパラメーターカテゴリー部(25ページ)のオープン/クローズボタン(1 ボタン)をクリックすると、詳細パラメーター部が開きます。詳細パラメーター部では、現在エディット中のマルチに対してさらに細かいパラメーター設定をしたり、各パートに割り当てられたボイスのエディットができます。

NOTE MOTIF-RACK XSエディター VSTでは、ボイスモードだけでなくマルチモードでもボイスエディットを行なえます。ボイスモードでは選択したボイスだけをエディットするのに対して、マルチモードでは1~16パートの音量バランスなどミキシング設定をしながら、各パートに割り当てられたボイスのパラメーターを調節することになります。いずれの場合でも、同じユーザーバンクにユーザーボイスとしてストア(保存)することになります。



8. 必要に応じて、エディットしたミキシングやボイスを保存(ストア)します。

8-1 MOTIF-RACK XS本体で、[STORE]ボタンを押してMulti Store (マルチストア)画面を呼び出し、保存先ナンバーを選択したうえで[ENTER]ボタンを押し、エディットしたマルチ設定を保存します。詳細は、MOTIF-RACK XS本体の取扱説明書をご参照ください。

NOTE MOTIF-RACK XSエディターVST上でも、[編集]メニューの[ミキシングのストア]を選択することでマルチ設定(ミキシング)を保存できます。ただしこの場合、保存先は選択できず、MOTIF-RACK XS本体で現在選択されているマルチにデータが保存されます。

8-2 保存したいボイスが割り当てられているパートを選択し、[編集]メニューの[ボイスのストア]を選択してストア画面(49ページ)を開き、手順6-1、6-2、6-3、6-4 (9ページ)と同じ操作でボイスを保存します。

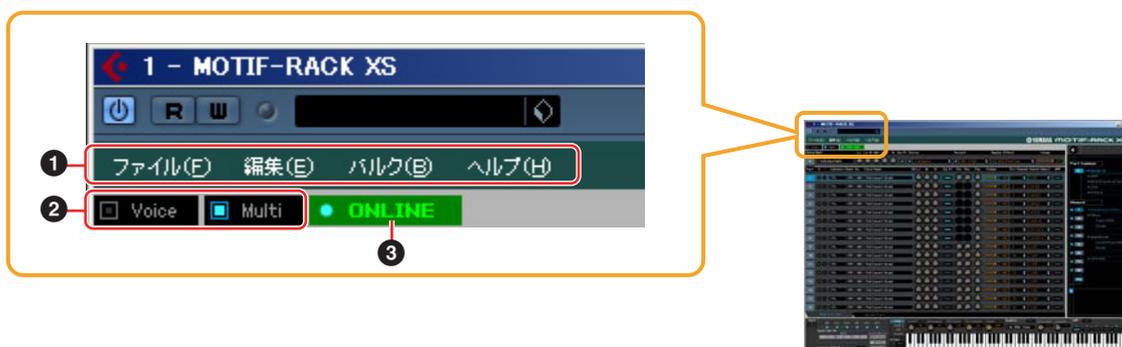
9. [ファイル]メニューから[名前を付けて保存]または[上書き保存]をクリックして、エディットしたデータをファイル(*.X1E)に保存します。

エディットの最終状態およびユーザーバンクに保存(ストア)されたボイスデータを、まとめて1つのファイル(*.X1E)に保存します。次回、同じファイルをMOTIF-RACK XSエディター VSTで開くと、Auto Sync画面が自動的に開き、[Start]をクリックすることでMOTIF-RACK XS本体と同期をとれます。

MOTIF-RACK XSエディター VSTのデータは、DAWアプリケーションのプロジェクトファイルの一部として保存できます。

各部の名称と機能

全体設定部



① ファイル、編集、バルク、ヘルプ

38ページをご参照ください。

② Voice (ボイス)/Multi (マルチ)モード切替

MOTIF-RACK XS本体のモードをボイスモードにするか、マルチモードにするかを設定します。ここでモードを切り替えるとMOTIF-RACK XS本体のモードが自動的に切り替わり、Auto Sync (オートシンク)画面が表示されます。Auto Sync画面上で必要な設定を行なったあと、MOTIF-RACK XS本体との同期をとることができます。

③ ONLINE/OFFLINE (オンライン/オフライン)

ここをクリックすることにより、ONLINE (オンライン)とOFFLINE (オフライン)を切り替えます。ONLINEが表示されている場合は、MOTIF-RACK XS本体とエディターが同期しており、どちらか一方で設定を変更したらもう一方の設定も自動的に変更されます。OFFLINEが表示されている場合は、両者が同期していないことを示しています。エディターとMOTIF-RACK XS本体との通信状況により、自動的に切り替わる場合もあります。たとえば、ケーブルの接続が外れると自動的にOFFLINEに切り替わります。

① ● ONLINE

エディターとMOTIF-RACK XS本体がオンライン状態にあることを示しています。クリックすることにより、オフラインに切り替わります。MIDIポートの設定が適切にできていない場合、またはケーブル接続が外れている場合などは、オンラインに設定することはできません。

② ● OFFLINE

MIDIポートの設定やケーブル接続が正しく行なわれているにもかかわらず、エディターがオフライン状態にあることを示しています。OFFLINE (オフライン)をクリックするとAuto Sync (オートシンク)画面が開くので、必要な設定を行なったあと、[Start]をクリックすることによりデータ同期を行ないます。データ同期が完了するとAuto Sync画面が自動的に閉じられ、エディターはONLINE (オンライン)の状態になります。

NOTE Auto Sync (オートシンク)画面において、Global (グローバル)、Current (カレント)とVoice (ボイス)がOffに設定されていて、Auto Start (オートスタート)がOnに設定されている場合にOFFLINE (オフライン)をクリックすると、Auto Sync画面を開くことなく、エディターの状態がオフラインからオンラインに切り替わります。

③ ● OFFLINE

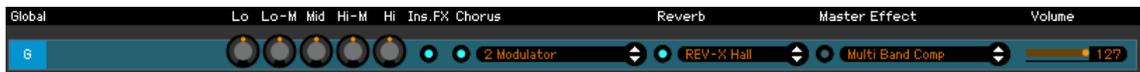
MIDIポートの設定やケーブル接続が正しく行なわれていないために、エディターがオフライン状態にあることを示しています。OFFLINE (オフライン)をクリックするとAuto Sync (オートシンク)画面が開くので、接続を確認し、必要な設定を行なったあとに[Start]をクリックすることによりデータ同期を行ないます。データ同期が完了するとAuto Sync画面が自動的に閉じられ、エディターはONLINE (オンライン)の状態になります。

ミキサー部 (Voice/Multi=Voiceの場合)



① Global (グローバル)

ボイスモードで、よく使われるエフェクトなどのパラメーターをエディットする部分です。「G」をクリックすることにより、下図のようにオンになります。



NOTE ここで説明するパラメーターをエディットすると、エディットの状態をファイルとして保存するまでの間、「G」の右上に小さな四角のマークが表示されます。この表示は、詳細パラメーター部の緑色の[F]マーク表示(27ページ)と連動します。



Lo、Lo-M、Mid、Hi-M、Hi (マスターEQ)

マスターイコライザーの各パラメーターをエディットします。

Ins FX (インサージョンエフェクト)

インサージョンエフェクトのオン/オフを設定します。

Chorus (コーラス)

コーラスのオン/オフを設定し、コーラスのエフェクトタイプを選択します。

Reverb (リバーブ)

リバーブのオン/オフを設定し、リバーブエフェクトのタイプを選択します。

Master Effect (マスターエフェクト)

マスターエフェクトのオン/オフを設定し、マスターエフェクトのタイプを選択します。

Volume (ボリューム)

全体のボリュームを調節します。

② [Voice]/[mLAN Part]タブ

ボイスかmLANパートかを選ぶタブです。下図は、ボイスが選択されている状態です。



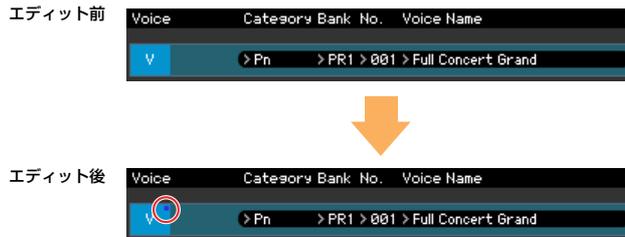
③ Voice (ボイス)

[Voice]タブを選択した場合

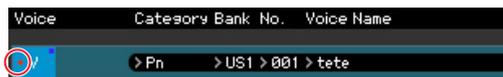
[Voice]タブ②を選択している場合、ボイスのパラメーターを表示/編集します。ボイスの列を選択すると背景は明るく表示されます。



NOTE ここで説明するボイスパラメーターをエディットすると、エディットの状態をファイルとして保存するまでの間、または、ボイスをストアするまでの間、「V」の右上に小さな四角のマークが表示されます。この表示は、詳細パラメーター部の青色の[V]マーク表示(27ページ)と連動します。



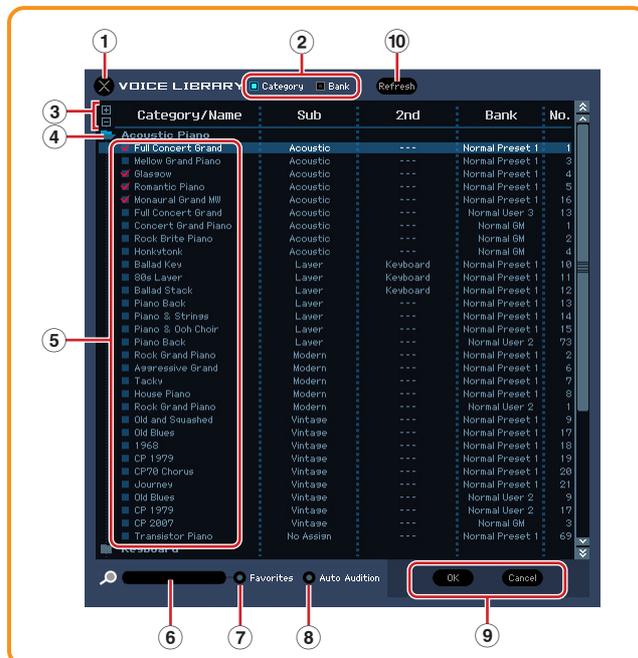
NOTE 「V」マークの左横にはMIDIモニターがあります。MIDIデータを受信すると、MIDIチャンネルに対応したボイスの列で小さな赤色のマークが光ります。



Category、Bank、No.、Voice Name (カテゴリー、バンク、ボイスナンバー、ボイスネーム)

現在選択されているボイス(音色)を表示します。クリックするとVOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)が表示され、ボイスを選択できます。

VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)



① [×](終了)ボタン

ボイスの変更をすべてキャンセルし画面を閉じ、VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)が開く前のボイスに戻ります。

② [Category](カテゴリー)/[Bank](バンク)チェックボックス

ボイスを、カテゴリー別のフォルダーに分けるか、バンク別のフォルダーに分けるかを設定します。

③ [+]/[-]ボタン

[+]をクリックすると全フォルダーが開き、中にある全ボイスが表示されます。[-]をクリックすると全フォルダーが閉じます。

④ フォルダー (カテゴリーまたはバンク)

クリックすることにより、フォルダーを開いたり閉じたりします。

⑤ ボイス

フォルダーの中にあるボイス群です。ボイスをクリックすると、そのボイスが一時的に選択されます。ボイスをダブルクリックすると、そのボイスが実質的に選択され、VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー) が閉じます。またユーザーバンク内では、ドラッグ&ドロップにより、ユーザーボイスの並び順を変えることができます。

[Category](カテゴリー)チェックボックスにチェックを入れた場合、各ボイス名の左にチェックボックスが表示されます。お気に入りのボイスやよく使うボイスのチェックボックスをオンにしておけば、[Favorites](フェーバリッツ)チェックボックス(⑦)をオンにすることにより、それらのボイスだけを表示させることができ便利です。



NOTE ボイスの選択、コピー、貼り付け、ドラッグ、ドロップについては、コンピューターのOSと同じ方法でできます。

NOTE Windowsの場合は右クリック、Macintoshの場合は<control>キー+クリックにより、下記の機能が使えます。

- 全フォルダーを開く/全フォルダーを閉じる
- ボイスをカテゴリー別のフォルダーに分けるか、バンク別のフォルダーに分けるかを設定する
- コピー / 貼り付け
- ボイスネームの変更
- Favoritesの全消去
- VSTプリセットの保存

NOTE VSTプリセットの保存には2つの方法があります。

- ボイスライブラリーで右クリック (Windows) / <control>キー + クリック (Macintosh) → VSTプリセットの保存
ユーザーバンクのボイスを1ボイス単位でVSTプリセットに保存します。プリセットバンクのボイスをVSTプリセットに保存する場合は、いったんユーザーバンクに保存する必要があります。
- DAWアプリケーションに用意されているVSTプリセットの保存ボタン
MOTIF-RACK XSEディターVST全体の設定をひとつのプリセットとして保存します。エディター設定やVSTI設定で選択したポートも保存されますので、接続方法を変更したときはご注意ください。

⑥ 検索ボックス

ここにキーワードを入れることで、使いたいボイスを探し出せます。

⑦ [Favorites] (フェーバリッツ)チェックボックス

このチェックボックスをオンにすることにより、自分のお気に入りのボイスやよく使うボイスだけをVOICE LIBRARY上に表示できます。お気に入りのボイスやよく使うボイスについては、各ボイスの左側のチェックボックスにチェックを入れて指定します。左側のチェックボックスは[Category] (カテゴリー)チェックボックスにチェックを入れた場合にのみ表示されます。

⑧ [Auto Audition] (オートオーディション)チェックボックス

VOICE LIBRARYを開いたときに、オーディションフレーズの再生を自動的に行なうかどうかを設定します。オンに設定すると、VOICE LIBRARYが開くと同時に現在選択されているボイスのオーディションフレーズが再生され、閉じると同時に再生が止まります。またVOICE LIBRARY上でボイスを切り替える(クリックする)と、選択されたボイスのオーディションフレーズが聞けます。

⑨ [OK]/[Cancel]ボタン

[OK]ボタンをクリックすると、ここでの設定が確定し、VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー) が閉じます。[Cancel] (キャンセル)ボタンをクリックすると、ここでのボイス選択を取り消し元に戻した上でVOICE LIBRARYが閉じます。

⑩ Refresh (リフレッシュ)

エディターのVOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)を開いた状態で、MOTIF-RACK XS本体側でボイスストアを行なうと、エディターとMOTIF-RACK XS本体のボイス名が一致しない状態になります。その場合、このボタンをクリックすることでVOICE LIBRARYでのボイス名表示を最新状態に更新します。

EQ Lo、Mi、Hi (パートEQ)

現在選択されているボイスのイコライザー調整をノブで行ないます。

Cho、Rev、Pan (コーラス、リバーブ、パン)

現在選択されているボイスのコーラスセンド、リバーブセンド、パンをそれぞれのノブでエディットします。

Volume (ボリューム)

現在選択されているボイスの音量を設定します。

ARP (アルペジオ)

アルペジオ再生のオン/オフを切り替えます。

[mLAN Part]タブを選択した場合

[mLAN Part]タブ(🔍)を選択している場合、ボイスモードでのmLANパートのパラメーターを表示/編集します。mLANパートが選択されていると、背景は明るく表示されます。

Cho、Rev、Pan (コーラス、リバーブ、パン)

mLANパートのコーラスセンド、リバーブセンド、パンをそれぞれのノブでエディットします。

Volume (ボリューム)

mLANパートの音量を設定します。

Output Select (アウトプットセレクト)

mLANパートの出力先を設定します。

表示	出力される端子	ステレオ/モノラル
L&R	OUTPUT LとR	ステレオ
asL&R	ASSIGNABLE OUTPUT LとR	ステレオ
m1&2	mLAN OUTPUT 1と2	ステレオ(1:L、2:R)
m3&4	mLAN OUTPUT 3と4	ステレオ(3:L、4:R)
m5&6	mLAN OUTPUT 5と6	ステレオ(5:L、6:R)
m7&8	mLAN OUTPUT 7と8	ステレオ(7:L、8:R)
m9&10	mLAN OUTPUT 9と10	ステレオ(9:L、10:R)
m11&12	mLAN OUTPUT 11と12	ステレオ(11:L、12:R)
m13&14	mLAN OUTPUT 13と14	ステレオ(13:L、14:R)
asL	ASSIGNABLE OUTPUT L	モノラル
asR	ASSIGNABLE OUTPUT R	モノラル
m1	mLAN OUTPUT 1	モノラル
:	:	:
m14	mLAN OUTPUT 14	モノラル

ミキサー部 (Voice/Multi=Multiの場合)

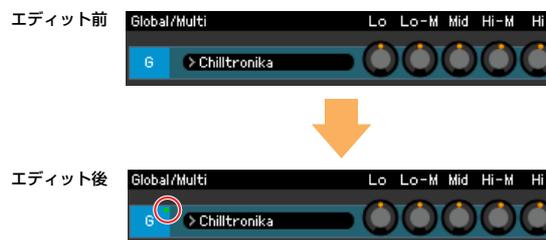


1 Global (グローバル)

マルチモードで、よく使われるエフェクトなどのパラメーターをエディットする部分です。「G」をクリックすることにより、下図のようにオンになります。



NOTE ここで説明するパラメーターをエディットすると、エディットの状態をファイルとして保存するまでの間、「G」の右上に小さな四角のマークが表示されます。この表示は、詳細パラメーター部の緑色の[円]マーク表示(30ページ)と連動します。



マルチ設定

[Part 1-16]タブが選択されている場合だけ、現在選択されているマルチ設定を表示します。クリックするとMULTI LIBRARY (マルチライブラリー)が表示され、マルチ設定を選択できます。

MULTI LIBRARY (マルチライブラリー)



① [×](終了)ボタン

マルチの変更をすべてキャンセルし画面を閉じ、MULTI LIBRARY (マルチライブラリー)が開く前のマルチに戻ります。

② [+]/[-]ボタン

[+]をクリックすると全フォルダーが開き、中にある全マルチが表示されます。[-]をクリックすると全フォルダーが閉じます。

③ マルチ設定

フォルダーの中にあるマルチ設定群です。マルチ設定のいずれかをクリックすると、そのマルチ設定が一時的に選択されます。マルチ設定のいずれかをダブルクリックすると、そのマルチ設定が実質的に選択され、MULTI LIBRARY (マルチライブラリー)が閉じます。

NOTE 右クリック (Windows)/<control>キー + クリック (Macintosh)により、下記機能が使えます。

- 全フォルダーを開く/全フォルダーを閉じる

④ 検索ボックス

ここにキーワードを入れることで、使いたいマルチ設定を探し出せます。

⑤ [OK]/[Cancel]ボタン

[OK]ボタンをクリックすると、ここでの設定が確定し、MULTI LIBRARY (マルチライブラリー)が閉じます。[Cancel] (キャンセル)ボタンをクリックすると、ここでの設定をすべて取り消し元に戻した上でMULTI LIBRARYが閉じます。

Lo、Lo-M、Mid、Hi-M、Hi (パートEQ)

パートイコライザーの各パラメーターをエディットします。

Ins FX (インサージョンエフェクト)

インサージョンエフェクトのオン/オフを設定します。

Chorus (コーラス)

コーラスのオン/オフを設定し、コーラスのエフェクトタイプを選択します。

Reverb (リバーブ)

リバーブのオン/オフを設定し、リバーブエフェクトのタイプを選択します。

Master Effect (マスターエフェクト)

マスターエフェクトのオン/オフを設定し、マスターエフェクトのタイプを選択します。

Volume (ボリューム)

全体のボリュームを調節します。

② [Part 1-16]/[mLAN Part]タブ

パート1～16かmLANパートかを選ぶタブです。下図は、パート1～16が選択されている状態です。



③ Part (パート)

[Part 1-16]タブを選択した場合

[Part 1-16]タブ(②)を選択している場合、パート1～16のパラメーターを表示/編集します。選択しているパートの背景は明るく表示されます。下図ではパート1が選択されています。

NOTE 各パートで選択されているボイスのパラメーター (エレメントパラメーターなど)をエディットすると、そのボイスをユーザーボイスまたはミキシングボイスとしてストア(保存)するまでの間、またはエディットの状態をファイルとして保存するまでの間、「1」～「16」の右上に小さな四角のマークが表示されます。この表示は、詳細パラメーター部の青色の[V]マーク表示(30ページ)と連動します。

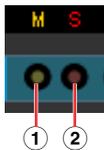


Part (パートナンバー)

パートナンバーを表示します。

NOTE エディターがONLINE (オンライン)の状態では、エディターでの設定とMOTIF-RACK XS本体での設定はお互い連動しますが、パートの選択については連動しない場合があります。エディター側のパートナンバーとMOTIF-RACK XS側のパートナンバーを合わせる必要がある場合は、それぞれの操作でパートナンバーを変更してください。

Mute/Solo (ミュート/ソロ)



① Mute (ミュート)

各パートのミュートのオン/オフを切り替えます。

② Solo (ソロ)

ソロパートを選びます。ソロは同時に1パートしかオンにできません。

Category、Bank、Voice Name (カテゴリー、バンク、ボイスネーム)

各パートのボイス(音色)を表示します。クリックするとVOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)が表示され、ボイスを選択できます。VOICE LIBRARYについては、ボイスモードの場合と同じです。15ページをご参照ください。

EQ Lo、Mi、Hi (パートEQ)

各パートのイコライザーをノブでエディットします。

Ins.FX (インサージョンエフェクトスイッチ)

インサージョンエフェクトのオン/オフを切り替えます。

NOTE インサージョンエフェクトは、同時に8パートまでオンにできます。

Cho、Rev、Pan (リバーブ、コーラス、パン)

各パートのコーラスセンド、リバーブセンド、パンをそれぞれのノブでエディットします。

Volume (ボリューム)

各パートの音量を設定します。

Rcv Channel (レシーブチャンネル)

各パートのMIDI受信チャンネルを設定します。

Output Select (アウトプットセレクト)

各パートの出力先を設定します。

表示	出力される端子	ステレオ/モノラル
L&R	OUTPUT LとR	ステレオ
asL&R	ASSIGNABLE OUTPUT LとR	ステレオ
m1&2	mLAN OUTPUT 1と2	ステレオ(1:L, 2:R)
m3&4	mLAN OUTPUT 3と4	ステレオ(3:L, 4:R)
m5&6	mLAN OUTPUT 5と6	ステレオ(5:L, 6:R)
m7&8	mLAN OUTPUT 7と8	ステレオ(7:L, 8:R)
m9&10	mLAN OUTPUT 9と10	ステレオ(9:L, 10:R)
m11&12	mLAN OUTPUT 11と12	ステレオ(11:L, 12:R)
m13&14	mLAN OUTPUT 13と14	ステレオ(13:L, 14:R)
asL	ASSIGNABLE OUTPUT L	モノラル
asR	ASSIGNABLE OUTPUT R	モノラル
m1	mLAN OUTPUT 1	モノラル
:	:	:
m14	mLAN OUTPUT 14	モノラル
drum	*	*

* エディット中のパートにノーマルボイスが割り当てられている場合、ここの表示は「L&R (dr)」となり、出力される端子は OUTPUT LとRでステレオ出力になります。エディット中のパートにドラムボイスが割り当てられている場合、ここの表示は「drum」となり、本体ボイスエディットモードのドラムキット各キーのOutput Selectで設定されている出力端子が有効になります。

NOTE L&R、m1～14、m1&2～m13&14に設定されたパートの出力先は、Quick Setupでの設定により出力の仕方が変わります。詳しくはQuick Setupの項目(34ページ)をご参照ください。

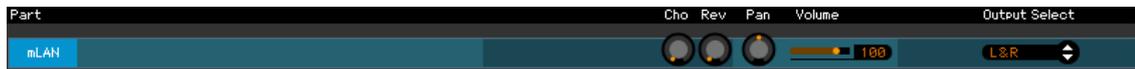
ARP (アルペジオ)

各パートでのアルペジオ再生のオン/オフを切り替えます。

NOTE 同時にアルペジオオンにできるパートは、最大4つまでです。

[mLAN Part]タブを選択した場合

[mLAN Part]タブ(🔍)を選択している場合、マルチモードでのmLANパートのパラメーターを表示/編集します。mLANパートが選択されていると、背景は明るく表示されます。



Cho、Rev、Pan (コーラス、リバーブ、パン)

mLANパートのコーラスセンド、リバーブセンド、パンをそれぞれのノブでエディットします。

Volume (ボリューム)

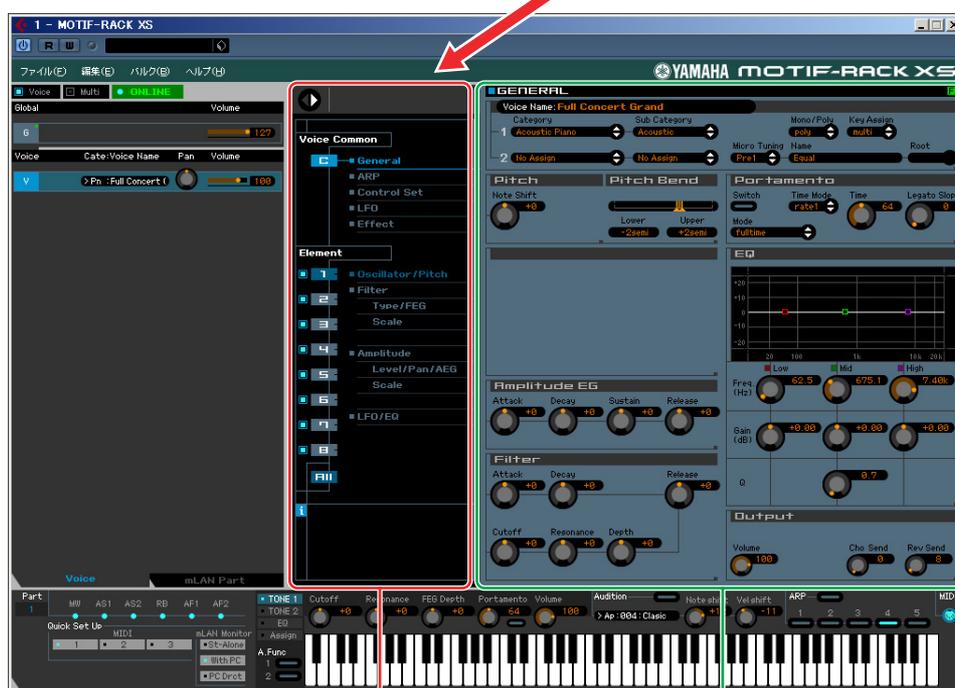
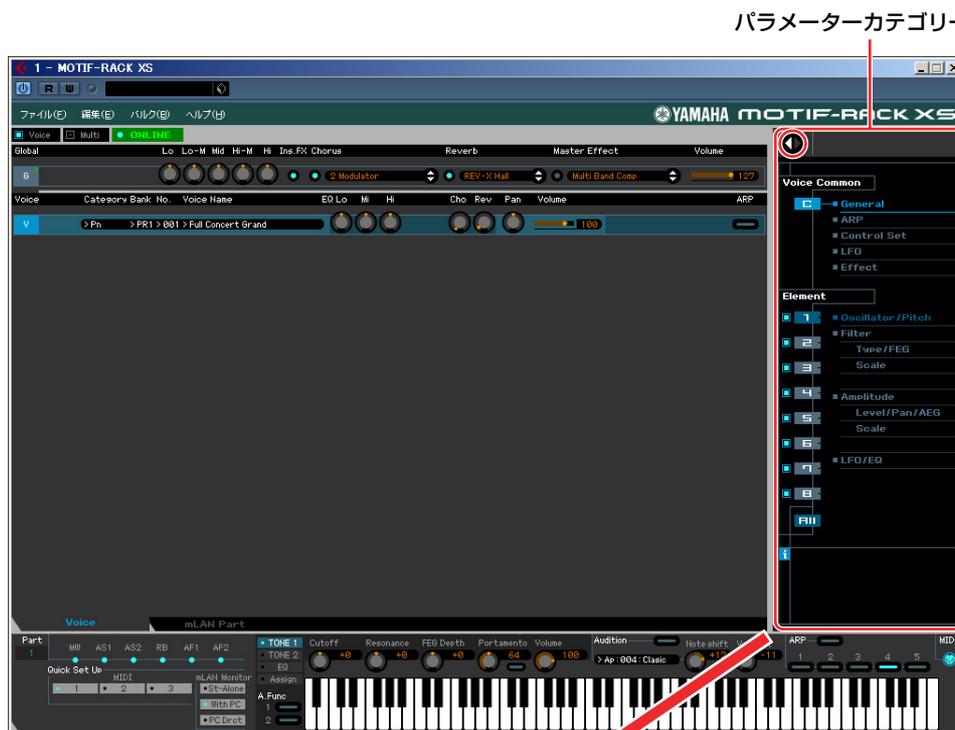
mLANパートの音量を設定します。

Output Select (アウトプットセレクト)

mLANパートの出力先を設定します。選択できる出力先は、ボイスモードでのmLANパートの場合と同じです(17ページ)。

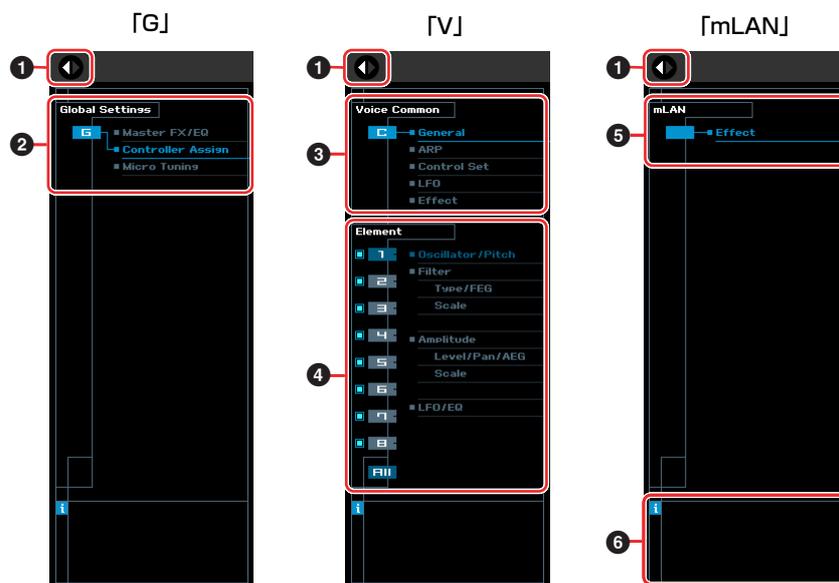
パラメーターカテゴリ部 (Voice/Multi=Voiceの場合)

画面右上にある **①** をクリックすることにより、現在選択されているパートの、さらに詳しい設定ができる詳細パラメーター部を呼び出せます。詳細パラメーター部を呼び出すことで、パラメーターカテゴリ部は画面中央まで移動します。



ミキサー部で選択されたパートが、G、V、mLANパートのいずれかによって、パラメーターカテゴリー部で表示されるカテゴリーは下図のとおり、異なります。

「V」は[Voice]/[mLAN Part]タブで[Voice]が選ばれている場合に、「mLAN」は[Voice]/[mLAN Part]タブで[mLAN]が選ばれている場合にそれぞれ選択できます。「G」はタブ選択に関係なく、選択できます。



① オープン/クローズボタン



詳細パラメーター部の表示/非表示を行ないます。ボタンの左側が白色の場合 ① は、詳細パラメーター部が表示されていないことを示します。クリックすると、詳細パラメーター部を表示します。ボタンの右側が白色の場合 ② は、詳細パラメーター部が表示されていることを示します。クリックすると、詳細パラメーター部を隠します。詳細パラメーター部の表示/非表示は、<Ctrl> + <←>、<Ctrl> + <→> (Macの場合はコマンドキー + <←>、コマンドキー + <→>)でも切り替えられます。

② Global Settings (グローバル設定)

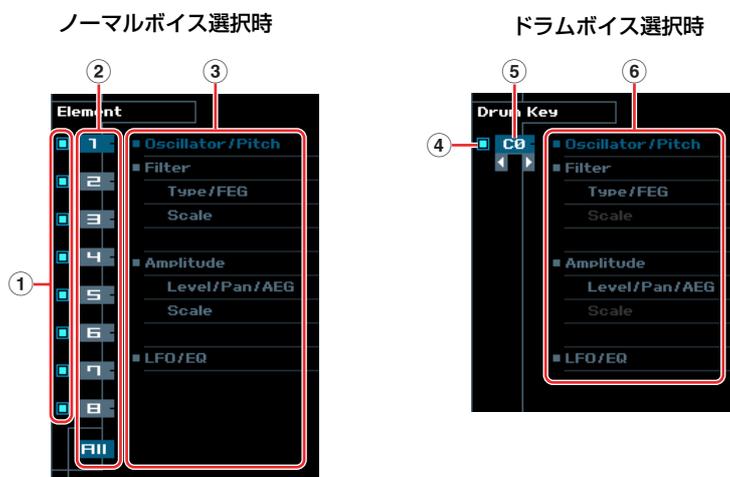
ミキサー部で「G」を選択しているときに表示されます。各カテゴリーをクリックすると、そのカテゴリーに属するグローバルパラメーター群が詳細パラメーター部に表示されます。

③ Voice Common (ボイスコモン)

ミキサー部で「V」を選択しているときに表示されます。各カテゴリーをクリックすると、そのカテゴリーに属するボイスコモンパラメーター群が、詳細パラメーター部に表示されます。

④ Element (エレメント)またはDrum Key (ドラムキー)

ミキサー部で「V」を選択しているときに表示されます。ノーマルボイスが選択されている場合はElement (エレメント)が表示され、ドラムボイスが選択されている場合はDrum Key (ドラムキー)が表示されます。各カテゴリーをクリックすると、そのカテゴリーに属するボイスエレメントパラメーター群、またはドラムキーパラメーター群が詳細パラメーター部に表示されます。



- ① **エレメント用チェックボックス(ノーマルボイス選択時)**
各エレメントをオン/オフします。
- ② **[1]~[8]、[All]ボタン(ノーマルボイス選択時)**
エディットするエレメントを選択します。[All]をクリックすると、詳細パラメーター部に「Element Quick Setting」画面が表示され、全エレメントの主なパラメーターを1つの画面でまとめてエディットできるようになります。
- ③ **エレメントパラメーターカテゴリー (ノーマルボイス選択時)**
エレメントパラメーターのカテゴリーが表示されます。各カテゴリーをクリックすると、そのカテゴリーに属するボイスエレメントパラメーター群が、詳細パラメーター部に表示されます。
- ④ **ドラムキー用チェックボックス(ドラムボイス選択時)**
各ドラムキーをオン/オフします。
- ⑤ **ドラムキー (ドラムボイス選択時)**
キー表示の下にある三角形表示をクリックすることにより、エディットするドラムキーを選択します。
- ⑥ **ドラムキーパラメーターカテゴリー (ドラムボイス選択時)**
ドラムキーパラメーターのカテゴリーが表示されます。各カテゴリーをクリックすると、そのカテゴリーに属するドラムキーパラメーター群が、詳細パラメーター部に表示されます。

⑤ mLAN

ミキサー部でmLAN Partを選択しているときに表示されます。詳細パラメーター部にはエフェクト関連のパラメーターが表示されます。

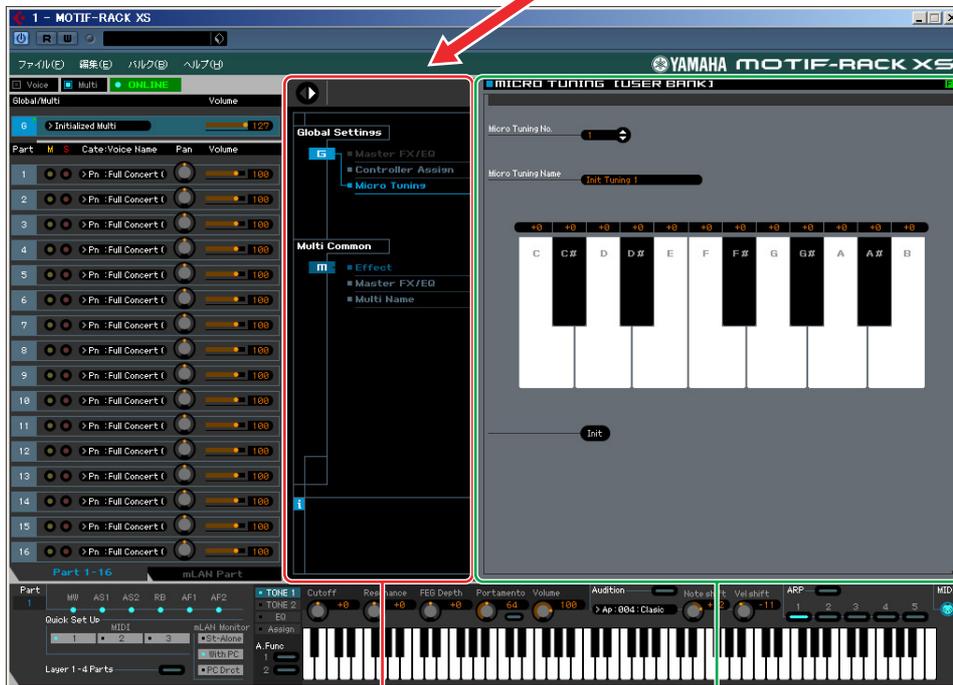
⑥ *i* (インフォメーション表示)

マウスが指し示しているパラメーターやスイッチなどの詳しい情報を表示します。「*i*」をクリックすることで、インフォメーション表示のする/しないを切り替えられます。

パラメーターカテゴリ部 (Voice/Multi=Multiの場合)

画面右上にある **①** をクリックすることにより、現在選択されているパートの、さらに詳しい設定ができる詳細パラメーター部を呼び出せます。詳細パラメーター部を呼び出すことで、パラメーターカテゴリ部は画面中央まで移動します。

パラメーターカテゴリ部

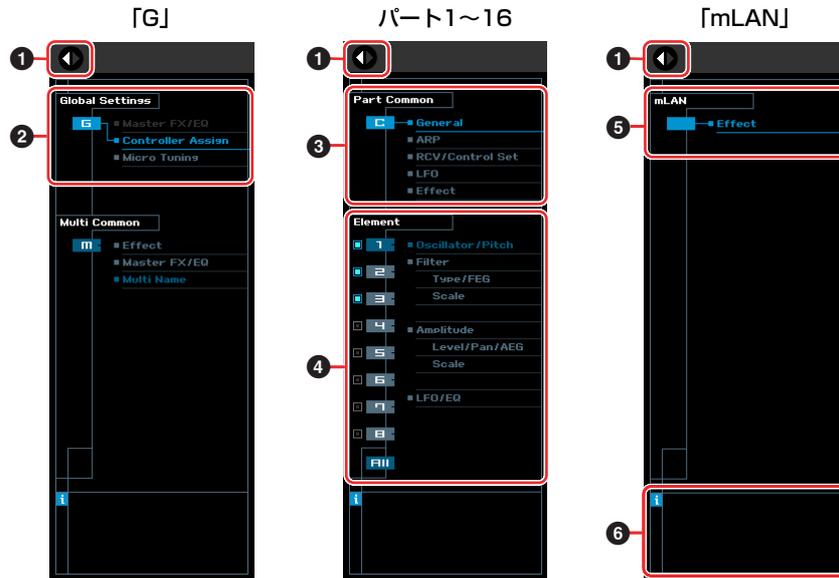


パラメーターカテゴリ部

詳細パラメーター部

ミキサー部で選択されたパートが、1~16、mLANパートのいずれかによって、パラメーターカテゴリ部で表示されるカテゴリは下図のとおり、異なります。

1~16は[Part 1-16]/[mLAN Part]タブで[Part 1-16]が選ばれている場合に、「mLAN」は[Part 1-16]/[mLAN Part]タブで[mLAN]が選ばれている場合にそれぞれ選択できます。「G」はタブ選択に関係なく、選択できます。



① オープン/クローズボタン



Voice/Multi=Voiceの場合(23ページ)と同じです。

② Global Settings (グローバル設定)

ミキサー部で「G」を選択しているときに表示されます。各カテゴリをクリックすると、そのカテゴリに属するグローバルパラメーター群が詳細パラメーター部に表示されます。

③ Part Common (パート共通)

ミキサー部でパート1~16のいずれかを選択しているときに表示されます。各カテゴリをクリックすると、そのカテゴリに属する共通パラメーター群およびボイス共通パラメーターが、詳細パラメーター部に表示されます。

④ Element (エレメント)またはDrum Key (ドラムキー)

ミキサー部でパート1~16のいずれかを選択しているときに表示されます。各カテゴリをクリックすると、そのカテゴリに属するボイスエレメントパラメーター群またはドラムキーパラメーター群が、詳細パラメーター部に表示されます。各部の名称と機能については、[Voice]/[Multi]=[Voice]の場合(24ページ)と同じです。

⑤ mLAN

ミキサー部でmLAN Partを選択しているときに表示されます。詳細パラメーター部にはエフェクト関連のパラメーターが表示されます。

⑥ i (インフォメーション表示)

マウスが指し示しているパラメーターやスイッチなどの詳しい情報を表示します。「i」をクリックすることで、インフォメーション表示のする/しないを切り替えられます。

詳細パラメーター部 (Voice/Multi=Voiceの場合)

ミキサー部で選択されたボイスまたはグローバル設定の、詳細なパラメーター群を表示します。ここでは、パラメーターカテゴリ部に表示される各パラメーターに、どのようなパラメーター群が属するかを説明します。各パラメーターの説明については、MOTIF-RACK XS本体に付属する取扱説明書をご参照ください。



エディット中の状態を示す3つのマーク

パラメーターをエディットすると画面右上に下記3種類のマークが表示されます。

- V** ボイスエディットの状態がユーザーボイスまたはミキシングボイスとしてストア(保存)されていないことを示しています。ボイスのストア(49ページ)を実行することで表示が消えます。
- G** グローバル設定に関するエディットの状態がストア(保存)されていないことを示しています。グローバルのストア(49ページ)を実行することで表示が消えます。
- F** パラメーターの種類に関係なく、エディットの状態がファイルとしてセーブ(保存)されていないことを示しています。

NOTE これら、V、G、Fのマークは、ミキサー部の「V」、「1」～「16」、「G」の右上に表示される小さな四角のマークと連動して表示されます。V、Gマークはストア(保存)を実行することで表示が消えます。Fマークとミキサー部の「G」の右上に表示される小さな四角のマークは、ファイルへのセーブ(保存)を実行することで表示が消えます。V、G、Fマーク、ミキサー部の「V」の右上に表示される小さな四角のマーク、パート「1」～「16」の右上に表示される小さな四角のマーク、「G」の右上に表示される小さな四角のマーク、これらすべてのマークはファイルへのセーブ(保存)を実行することで表示が消えます。

Global Settings (グローバルセッティング)

ミキサー部で「G」を選択すると表示されるパラメーターカテゴリで、下記のサブカテゴリから構成されます。

Master FX/EQ (マスターエフェクト/EQ)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にボイスモードでのマスターエフェクト/EQに関するパラメーター群が表示されます。MOTIF-RACK XS本体では、ユーティリティセレクト画面にある「Voice MEF」、「Voice MEQ」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。

Controller Assign (コントローラーアサイン)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にコントローラーアサインに関するパラメーター群が表示されます。MOTIF-RACK XS本体では、ユーティリティセレクト画面にある「Controller」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。

Micro Tuning (マイクロチューニング)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にマイクロチューニングに関するパラメーター群が表示されます。MOTIF-RACK XS本体では、ユーティリティセレクト画面にある「Micro Tune」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。

Voice Common (ボイスコモン)

ミキサー部で「V」を選択すると表示されるパラメーターカテゴリです。このカテゴリに属するパラメーターでは、ボイスを構成する全エレメント/全ドラムキーに共通の設定を行ないます。Voice Common (ボイスコモン)は、下記のサブカテゴリから構成されます。

General (ジェネラル)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にボイスネームやボイスのピッチに関するパラメーターなど、さまざまなパラメーター群が表示されます。MOTIF-RACK XS本体では、ボイスコモンエディットセレクト画面にある「Name」、「Play Mode」、「Filter」、「EG」、「3 Band EQ」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。

ARP (アルペジオ)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にアルペジオに関するパラメーター群が表示されます。MOTIF-RACK XS本体では、ボイスコモンエディットセレクト画面にある「Arpeggio」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。なお、画面中央の「Individual ARP Parameters」にある、Bank/Category/Sub/Number/Nameと表記されているボックスをクリックすると、ARP LIBRARY (アルペジオライブラリー)画面が現われます。VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)画面(15ページ)と同様の使い方、アルペジオタイプを選択できます。

Controller Set (コントローラーセット)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にコントローラーセットに関するパラメーター群が表示されます。MOTIF-RACK XS本体では、ボイスコモンエディットセレクト画面にある「Controller」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。

LFO (ローフリクエンシーオシレーター)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にLFOに関するパラメーター群が表示されます。MOTIF-RACK XS本体では、ボイスコモンエディットセレクト画面にある「LFO」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。ドラムボイスには、このパラメーターはありません。

Effect (エフェクト)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にエフェクトに関するパラメーター群が表示されます。MOTIF-RACK XS本体では、ボイスコモンエディットセレクト画面にある「Effect」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。

Element (エレメント)またはDrum Key (ドラムキー)

ミキサー部で「V」を選択すると表示されるパラメーターカテゴリーです。ノーマルボイスが選択されている場合はElementが、ドラムボイスが選択されている場合はDrum Keyが表示されます。このカテゴリーに属するパラメーターでは、ボイスを構成する各エレメントまたはドラムキーに固有の設定を行いません。下記のサブカテゴリーから構成されます。

NOTE Element (エレメント)表示の下に表示されているチェックボックス(1~8)、およびAllについては、[24ページ](#)をご参照ください。Drum Key (ドラムキー)表示の下に表示されているチェックボックス、およびドラムキー表示については、[24ページ](#)をご参照ください。

NOTE ボイスのエレメントパラメーターおよびドラムキーパラメーターは、すべてMOTIF-RACK XSエディター VST上でのみエディットできます。MOTIF-RACK XS本体ではエディットできません。

Oscillator/Pitch (オシレーター /ピッチ)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にオシレーター /ピッチに関するパラメーター群が表示されます。

Filter (フィルター)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にフィルターに関するパラメーター群が表示されます。

Amplitude (アンプリチュード)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にアンプリチュードに関するパラメーター群が表示されます。

LFO/EQ (ローフリケンシーオシレーター /イコライザー)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にLFO/EQに関するパラメーター群が表示されます。

mLAN

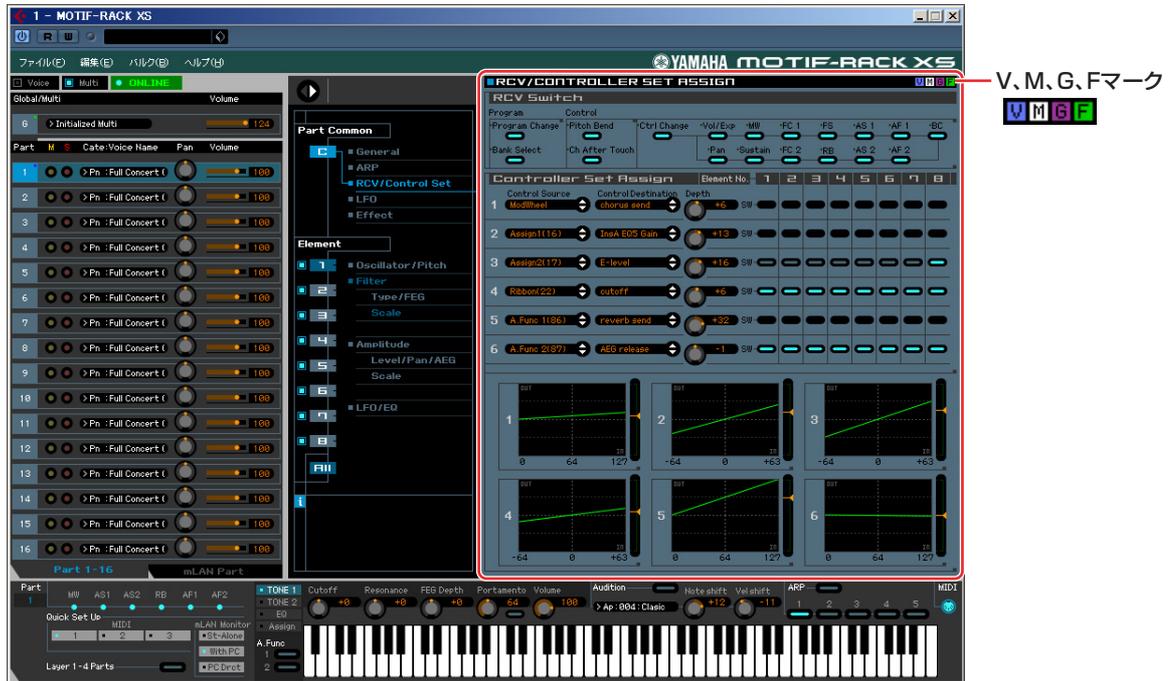
ミキサー部で「mLAN」を選択すると表示されるパラメーターカテゴリーです。このカテゴリーに属するパラメーターでは、ボイスモードでのmLANパートに関する設定を行いません。下記のサブカテゴリーから構成されます。

Effect (エフェクト)

パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にボイスモードでのmLANパートにかかるエフェクト関連のパラメーター群が表示されます。

詳細パラメーター部 (Voice/Multi=Multiの場合)

ミキサー部で選択されたパートおよびパートに割り当てられているボイスの詳細なパラメーター群を表示します。ここでは、パラメーターカテゴリ部に表示される各パラメーターに、どのようなパラメーター群が属するかを説明します。各パラメーターの説明については、MOTIF-RACK XS本体に付属する取扱説明書をご参照ください。



エディット中の状態を示す4つのマーク

パラメーターをエディットすると画面右上に下記4種類のマークが表示されます。

-  ボイスエディットの状態がユーザーボイスまたはミキシングボイスとしてストア(保存)されていないことを示しています。ボイスのストア(49ページ)を実行することで表示が消えます。
-  マルチエディットの状態がストア(保存)されていないことを示しています。ミキシングのストア(50ページ)を実行することで表示が消えます。
-  グローバル設定に関するエディットの状態がストア(保存)されていないことを示しています。グローバルのストア(49ページ)を実行することで表示が消えます。
-  パラメーターの種類に関係なく、エディットの状態がファイルとしてセーブ(保存)されていないことを示しています。

NOTE これら、V、M、G、Fのマークは、ミキサー部の「V」、「1」～「16」、「G」の右上に表示される小さな四角のマークと連動して表示されます。V、M、Gマークはストア(保存)を実行することで表示が消えます。Fマークとミキサー部の「G」の右上に表示される小さな四角のマークは、ファイルへのセーブ(保存)を実行することで表示が消えます。V、G、Fマーク、ミキサー部の「V」の右上に表示される小さな四角のマーク、パート「1」～「16」の右上に表示される小さな四角のマーク、「G」の右上に表示される小さな四角のマーク、これらすべてのマークはファイルへのセーブ(保存)を実行することで表示が消えます。

Global Settings (グローバルセッティング)

ミキサー部で「G」を選択すると表示されるパラメーターカテゴリで、下記のサブカテゴリから構成されます。

Controller Assign (コントローラーアサイン)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にコントローラーアサインに関するパラメーター群が表示されます。MOTIF-RACK XS本体では、ユーティリティーセレクト画面にある「Controller」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。

Micro Tuning (マイクロチューニング)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にマイクロチューニングに関するパラメーター群が表示されます。MOTIF-RACK XS本体では、ユーティリティーセレクト画面にある「Micro Tune」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。

Multi Common (マルチコモン)

ミキサー部で「G」列を選択すると表示されるパラメーターカテゴリで、下記のサブカテゴリから構成されます。

Effect (エフェクト)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にマルチモードでのエフェクトに関するパラメーター群が表示されます。MOTIF-RACK XS本体では、マルチコモンエディットセレクト画面にある「Effect」を選択して呼び出される画面上の、「Reverb」「Chorus」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。

Master FX/EQ (マスターエフェクト/EQ)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にマルチモードでのエフェクトに関するパラメーター群が表示されます。マスターエフェクトについては、MOTIF-RACK XS本体のマルチコモンエディットセレクト画面にある「Effect」を選択して呼び出される画面上の、「Master」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。マスターEQについては、MOTIF-RACK XS本体のマルチコモンエディットセレクト画面にある「MEQ」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。

Multi Name (マルチネーム)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にマルチの名称をエディットする画面が表示されます。MOTIF-RACK XS本体では、マルチコモンエディットセレクト画面にある「Name」を選択して呼び出される画面に該当します。

Part Common (パートコモン)

ミキサー部で「1」～「16」のいずれかを選択すると表示されるパラメーターカテゴリで、下記のサブカテゴリから構成されます。

General (ジェネラル)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、現在選択されているパートに関するパラメーター (エディットすることで画面右上に「M」マークが表示されるもの) や、パートに割り当てられているボイスに関するパラメーター (エディットすることで画面右上に「V」マークが表示されるもの) など、さまざまなパラメーター群が詳細パラメーター部に表示されます。

ARP (アルペジオ)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、現在選択されているパートに割り当てられているアルペジオに関するパラメーター群が詳細パラメーター部に表示されます。MOTIF-RACK XS本体では、マルチコモンエディットセレクト画面の「Arpeggio」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群、およびマルチエディットセレクト画面の「Arpeggio」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群に該当します。なお、画面中央の「Individual ARP Parameters」にある、Bank/Category/Sub/Number/Nameと表記されているボックスをクリックすると、ARP LIBRARY (アルペジオライブラリー) 画面が現われます。VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー) 画面(15ページ)と同様の使い方で、アルペジオタイプを選択できます。

Rcv/Control Set (レシーブ/コントロールセット)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、現在選択されているパートでのMIDIメッセージの受信に関するパラメーター群、およびコントロールセットに関するパラメーター群が、詳細パラメーター部に表示されます。MOTIF-RACK XS本体では、マルチエディットセレクト画面の「Rcv Sw」を選択して呼び出される画面上のパラメーター群が該当します。

LFO (ローフリクエンシーオシレーター)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、現在選択されているパートに割り当てられているボイスのLFOに関するパラメーター群が、詳細パラメーター部に表示されます。現在選択されているパートにドラムボイスが割り当てられている場合は、このパラメーターは無効です。

Effect (エフェクト)

パラメーターカテゴリ部でこれを選択すると、現在選択されているパートでのインサクションエフェクトに関するパラメーター群や、全パートに共通にかかるシステムエフェクトに関するパラメーター群が、詳細パラメーター部に表示されます。

Element (エレメント)またはDrum Key (ドラムキー)

ミキサー部で「1」～「16」のいずれかを選択すると表示されるパラメーターカテゴリーです。現在選択されているパートにノーマルボイスが割り当てられている場合はElementが、ドラムボイスが割り当てられている場合はDrum Keyが表示されます。このカテゴリーに属するパラメーターでは、ボイスを構成する各エレメントまたはドラムキーに固有の設定を行ないます。

詳細は、[Voice]/[Multi]=[Voice]の場合と同じです(29ページ)。

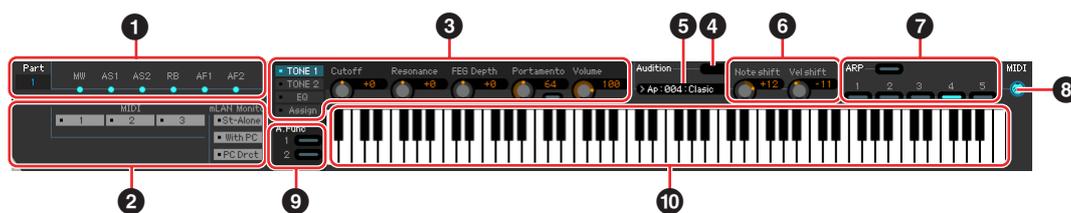
mLAN

ミキサー部で「mLAN」を選択すると表示されるパラメーターカテゴリーです。このカテゴリーに属するパラメーターでは、マルチモードでのmLANパートに関する設定を行ないます。下記のサブカテゴリーから構成されます。

Effect (エフェクト)

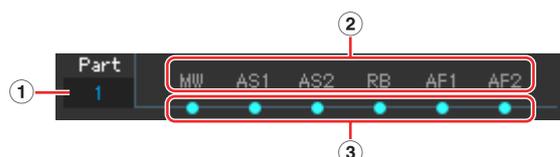
パラメーターカテゴリー部でこれを選択すると、詳細パラメーター部にマルチモードでのmLANパートにかかるエフェクト関連のパラメーター群が表示されます。

下部



① コントローラー表示

MOTIF-RACK XSに装備されているコントローラーのうち、どれがRCV/CONTROLLER SET ASSIGN画面にあるコントローラーセットのControl Source (コントロールソース)として設定されているかを表示しています。



① Part (パート)

現在どのパートのコントローラーセットの設定が表示されているかを示します。[Voice]/[Multi]=[Voice]の場合は「1」で固定表示、[Voice]/[Multi]=[Multi]の場合は現在選択されているパートの番号が表示されます。

② Control Source (コントロールソース)

左から順に、現在選択されているパート(①)のコントローラーセット 1~6のコントロールソース(コントローラー)を表示します。

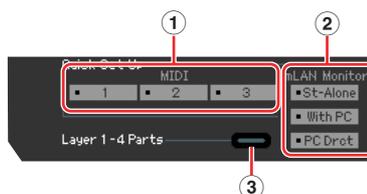
表示名	コントロールソース名
PB	ピッチベンドホイール
MW	モジュレーションホイール
AT	鍵盤のアフタータッチ
FC	フットコントローラー
FS	フットスイッチ
RB	リボンコントローラー
BC	プレスコントローラー
AS1	ASSIGN 1ノブ
AS2	ASSIGN 2ノブ
FC2	フットコントローラー 2
AF1	ASSIGNABLE FUNCTION 1ボタン
AF2	ASSIGNABLE FUNCTION 2ボタン

③ オン/オフ表示

こちらのランプがオンの場合、該当するコントローラー (Control Source)に任意の機能(Control Destination)が割り当てられていることを示しています。オフの場合は機能が割り当てられていないことを示しています。

② Quick Setup (クイックセットアップ)

MOTIF-RACK XS本体のMIDIに関するさまざまなパラメーター設定や、IEEE1394ケーブル経由でオーディオ音声を送る際のモニターに関するパラメーター設定を、ワンタッチで変更する機能です。



① MIDI

「1」～「3」の3種類のテンプレートの中から1つを選択します。MOTIF-RACK XS本体では、ユーティリティメニュー画面中の「MIDI」を選択して呼び出される画面の3ページ目にあるQuick Setupパラメーターに該当します。

② mLAN Monitor

3種類のテンプレートの中から1つを選択します。MOTIF-RACK XS本体では、ユーティリティメニュー画面中の「General」を選択して呼び出される画面の2ページ目にあるmLAN monitorパラメーターに該当します。

③ Layer 1-4 Parts

[Voice]/[Multi] = [Multi]の場合のみ表示されるパラメーターです。チェックボックスをオンにすると、パート1～4だけがMIDIメッセージを受信可能な状態になります。このときパート1～4の受信チャンネルは、エディター画面上的設定とは関係なく、本体ユーティリティモードのReceive Ch (ベーシックレシーブチャンネル)で設定したチャンネルに統一されます。チェックボックスをオフにすると、パート1～16はエディター画面上的設定どおりに動作します。

このパラメーターは、エディターにプリセットで搭載されている384個(128×3バンク)のマルチを有効に活用していただくためにあります。エディターに搭載されているマルチは、MOTIF XSに搭載されているパフォーマンス(4パートで構成)と同等のもので、パート1～4だけが同一受信チャンネルで演奏されることを想定しています。したがって、Layer 1-4 Partsをオンにするだけで、MOTIF XSのパフォーマンスと同等のサウンドを楽しめます。

③ ノブ

MOTIF-RACK XS本体にあるノブと同じ働きをします。



① [TONE1]/[TONE2]/[EQ]/[Assign]

MOTIF-RACK XSパネル上のノブの左にある[SELECT]ボタンと同じ働きをします。

② ノブ1～5

MOTIF-RACK XSパネル上にある5つのノブと同じ働きをします。

④ Audition (オーディション)ボタン

MOTIF-RACK XSパネル上にある[AUDITION]ボタンと同じ働きをします。

⑤ オーディションフレーズ表示

現在選択されているオーディションフレーズを表示します。ここをクリックするとPHRASE LIBRARY画面が現われ、オーディションフレーズを変更することができます。

6 Note Shift/Vel Shift (ノートシフト/ベロシティーシフト)

オーディションフレーズの再生時に、オリジナルデータからシフトするノートナンバーおよびベロシティーを設定します。ノートシフトではオーディションフレーズのピッチを半音単位で上げ下げでき、ベロシティーシフトではオーディションフレーズの再生時の強さを調節できます。

4 ARP (アルペジオ)

アルペジオの設定(オン/オフおよび1~5の切替)をします。

5 MIDIモニター



MIDIモニター機能をオン/オフします。このMIDI端子アイコンをオンすることにより、MOTIF-RACK XS本体に入力されるMIDIノートオン/オフが、エディター下部にある鍵盤イラストに反映されます。コンピューターに接続されたMIDIキーボードを演奏しながらMOTIF-RACK XSエディター VSTでの設定結果を確認したい場合に、このMIDIモニター機能を使います。

6 [A.Func] (アサイナブルファンクション)ボタン

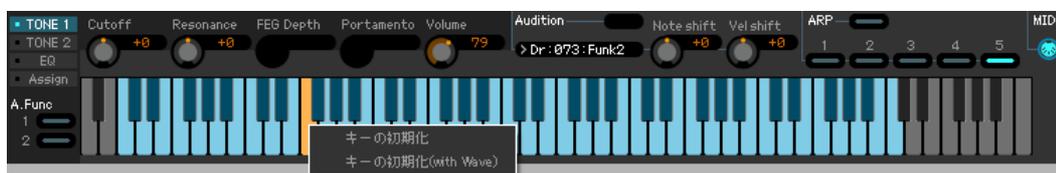
ノーマルボイスエレメントのOscillator/Pitch (オシレーター /ピッチ)画面にあるXA Controlパラメーターの設定値「All AF off」「AF1 on」「AF2 on」に関連するボタンです。詳細は、MOTIF-RACK XS本体付属の取扱説明書をご参照ください。

7 鍵盤イラスト

クリックまたはドラッグされた鍵盤に該当するノートオン/オフのMIDIメッセージは、エディター設定画面(41ページ)のMIDI OUTで設定されたポート経由で、コンピューター外部に送られます。

NOTE 鍵盤をクリックしたときのベロシティーは、ファイルメニューの「エディター設定」で呼び出されるSetup (セットアップ)画面のKeyboard Velocity (43ページ)で設定します。

NOTE ドラムボイスをエディットしている場合、Windowsの場合は右クリック、Macintoshの場合は<control>キー+クリックするとドラムキーの初期化ができます。「キーの初期化」をクリックすると、ウェーブフォーム以外のドラムキーの設定が初期化され、「キーの初期化(with Wave)」をクリックすると、ウェーブフォームも含めたドラムキーの設定が初期化されます。



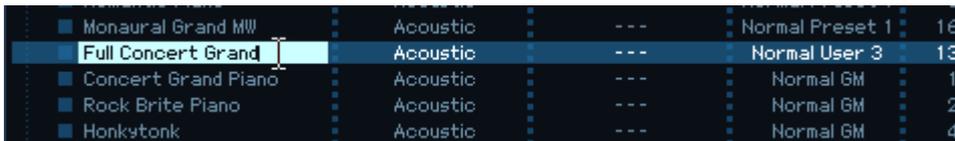
MOTIF-RACK XSエディター VSTの基本操作

MOTIF-RACK XSエディター VSTの基本的な操作について説明します。

ボイス名を編集する

VOICE LIBRARY (ボイスライブラリー)、GENERAL (ジェネラル)画面、Store (ストア)画面でボイス名の編集ができます。

VOICE LIBRARY (15ページ)では、ユーザーボイスまたはミキシングボイスを選びさらにクリックすると、ボイス名が編集できるようになります。編集後は、<Enter>キーを押すかカーソルを別のパラメーターに移して編集結果を確認します。<Esc>キーを押せば編集結果をキャンセルできます。



GENERAL画面(下図)とStore画面(49ページ)では、「Voice Name」と表示されているテキスト入力ボックスにカーソルを置くことで、自由にボイス名を編集できます。編集後は、<Enter>キーを押すかカーソルを別のパラメーターに移して編集結果を確認します。



ボイスを探す/アルペジオタイプを探す/マルチを探す



VOICE LIBRARY画面(15ページ)、MULTI LIBRARY画面(19ページ)、ARP LIBRARY画面、PHRASE LIBRARY画面の下にある検索ボックスにキーワードを入れることにより、それぞれボイス、マルチ設定(ミキシング設定)、アルペジオタイプ、オーディションフレーズを探し出すことができます。また、インポート画面(39ページ)の下にある検索ボックスも、インポートしたいボイスを探すために使えます。

数値を入れる



上図のような数値ボックスをダブルクリックすると、数値入力が可能になります。数値編集後は、<Enter>キーを押すかカーソルを別のパラメーターに移して編集結果を確認します。<Esc>キーを押せば編集結果をキャンセルできます。また数値ボックスをクリックしたあと、カーソルキーまたは<Page Up>/<Page Down>キーを押すことで数値変更することもできます。

Windowsでは<Ctrl>キーを押した状態で数値ボックスをクリックすることにより、数値を初期値に戻せます。Macintoshでは、コマンドキーを押した状態で数値ボックスをクリックすることにより、数値を初期値に戻せます。

NOTE パラメーターによっては、マウスによる数値編集だけ可能で、数値ボックスをダブルクリックしても数値入力ができない場合があります。

パラメーターの設定値を選ぶ



パラメーターのボックスをクリックするとリストボックスが表示されるので、その中から設定値を選びます。また、[▲]/[▼]ボタンをクリックすると前の値/次の値に変わります。

ノブで数値を変更する



図のようなノブでは、ドラッグしたりクリックすることでパラメーター値を編集できます。クリックしたあと、カーソルキーまたは<Page Up>/<Page Down>キーを押すことで数値変更することもできます。細かい設定をするには、<Shift>キーを押しながらドラッグします。

Setup (セットアップ)画面(41ページ)のKnob GuideパラメーターやKnob Mouse Controlパラメーターを設定することで、ノブの操作方法を変更できます。Windowsでは、<Ctrl>キーを押した状態で数値ボックスをクリックすることにより、数値を初期値に戻せます。Macintoshでは、コマンドキーを押した状態で数値ボックスをクリックすることにより、数値を初期値に戻せます。

スライダーで数値を変更する



図のようなスライダーでは、ドラッグしたりクリックしたりすることでパラメーター値を編集できます。クリックしたあと、カーソルキーまたは<Page Up>/<Page Down>キーを押すことで数値変更することもできます。細かい設定をするには、<Shift>キーを押しながらドラッグします。

Setup (セットアップ)画面(41ページ)のSlider Mouse Controlパラメーターを設定することで、スライダーの操作方法を変更できます。Windowsでは、<Ctrl>キーを押した状態でスライダーをクリックすることにより、数値を初期値に戻せます。Macintoshでは、コマンドキーを押した状態でスライダーをクリックすることにより、数値を初期値に戻せます。

グラフ上で数値を変更する



図のようなグラフでは、「□」をドラッグすることでパラメーター値を編集できます。

Windowsでは、<Ctrl>キーを押した状態で「□」をクリックすると、クリックされた「□」の値が初期値に戻ります。<Ctrl>キーを押した状態でグラフ内の「□」以外の部分をクリックした場合は、グラフ全体が初期化されます。

Macintoshでは、コマンドキーを押した状態で「□」をクリックすると、クリックされた「□」の値が初期値に戻ります。コマンドキーを押した状態でグラフ内の「□」以外の部分をクリックした場合は、グラフ全体が初期化されます。

メニュー

[ファイル]メニュー

ファイル(F)	編集(E)	バルク(B)
新規作成(N)		Ctrl+N
開く(O)...		Ctrl+O
上書き保存(S)		Ctrl+S
名前を付けて保存(A)...		
インポート(I)		Ctrl+H
エディター設定(U)		
本体ユーティリティ(H)		
VST設定(V)		

新規作成

現在開いているファイルを閉じ、ミキシングやボイスの設定が初期状態の新しいファイルを開きます。

開く...

既存のファイルを開きます。選択できるファイル形式は、以下のとおりです。

- MOTIF-RACK XS Editor (.X1E)
- MOTIF XS Editor (.XOE)
- MO6/MO8 Multi Part Editor (.M4E)
- MOTIF-RACK ES Multi Part Editor (.M3E)
- MOTIF ES6/7/8 Multi Part Editor (.M4E)



MOTIF-RACK XSエディター VST上で編集できるのは、1ファイルだけです。そのため、「新規作成」やファイルの「開く」を実行すると、現在編集中のミキシングデータやボイスデータは消えてしまいます。大切なデータは、ファイルとして保存しておきましょう。

上書き保存

開いているファイルを上書き保存します。

名前をつけて保存...

ファイルに名前をつけて保存します。既存のファイルを別名で保存することができます。選択できるファイルの種類は、MOTIF-RACK XS Editor (.X1E)だけです。

インポート

他のファイルからボイスデータをインポートします。

まずファイル選択ボタン(③)をクリックし、インポートするボイスデータを含んだファイル呼び出します。インポート元のファイル内容表示(⑧)上で、インポートするデータを選択します。そのあと、インポート先のファイル内容表示(⑨)上で、インポート先となるMOTIF-RACK XSエディター VSTのボイスナンバー /ボイスバンクを選択します。

1度にインポートできるデータは、1ボイス(バンク/カテゴリー)か1フォルダー(バンクの場合のみ)のどちらかになります。1ボイスをインポートする場合は、インポート先も1ボイスナンバーを選択し、フォルダーごとインポートする場合は、インポート先も1フォルダー(バンクの場合のみ)を選択する必要があります。

最後に[Import]ボタン(⑤)をクリックすると、インポートが実行されます。

選択できるファイル形式は、以下のとおりです。

- MOTIF-RACK XS Editor (.X1E)
- MOTIF XS Editor (.XOE)
- MO6/MO8 Voice EditorおよびMOTIF ES6/7/8 Voice Editor (.W7E)
- MOTIF ES6/7/8 Multi Part Editor (.M4E、.M2E)
- MO6/MO8 Multi Part Editor (.M4E)
- MOTIF-RACK ES Multi Part Editor (.M3E)
- MOTIF XS ALL (.XOA)
- MOTIF XS ALL Voice (.XOV)



① [×](終了)ボタン

この画面から抜けてインポートを終了します。

② File Name (ファイルネーム)

現在開いているファイルの名前を表示します。

③ ファイル選択ボタン

クリックするとファイルを選択するダイアログボックスを表示します。

④ [Category](カテゴリー)/[Bank](バンク)チェックボックス

ファイル内容表示(⑧)でカテゴリー別に表示するかバンク別に表示するか選択します。

5 [Import](インポート)ボタン

ファイル内容表示(8)で選択したデータを、MOTIF-RACK XSエディター VST内容表示(9)で選択した場所にインポートします。

NOTE [Import]ボタンを使わなくても、インポート元のファイル(8)をドラッグして、インポート先(9)にドラッグすることでも、インポートできます。

NOTE ノーマルボイスをユーザードラムボイスバンクにインポートすることはできません。同様に、ドラムボイスをユーザーノーマルボイスバンクにインポートすることはできません。また、インポート先としてプリセットボイスバンクを設定することはできません。

6 [+] / [-] ボタン

[+]ボタンをクリックすると、ファイル内容表示(8)、MOTIF-RACK XSエディター VST内容表示(9)で、カテゴリやバンクの内容をすべて表示します。

[-]ボタンをクリックすると、ファイル内容表示(8)、MOTIF-RACK XSエディター VST内容表示(9)で、カテゴリやバンクの内容をすべて隠します。

7 フォルダー

クリックすると、ファイル内容表示(8)、MOTIF-RACK XSエディター VST内容表示(9)で、カテゴリやバンクの内容を表示したり隠したりします。

8 インポート元のファイル内容表示

ファイル選択ボタン(3)をクリックして選択したファイル内にあるボイスまたはフォルダー (バンク/カテゴリ)を表示します。ここで、インポートするボイス/フォルダーを選択します。

Windowsの場合は右クリック、Macintoshの場合は<control>キー+クリックするとメニューを表示して、全フォルダーを開く、全フォルダーを閉じる、カテゴリ表示にする、バンク表示にするなどの操作ができます。

9 インポート先(MOTIF-RACK XSエディター VST)のファイル内容表示

現在編集集中のMOTIF-RACK XSエディター VSTファイル内にあるボイス/バンクを表示します。ここで、インポート先のボイス/バンクを選択します。

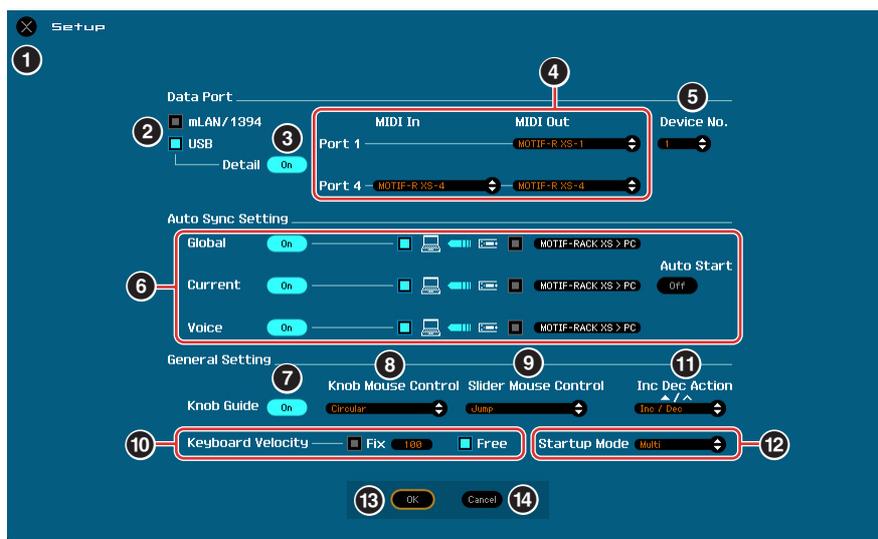
Windowsの場合は右クリック、Macintoshの場合は<control>キー+クリックするとメニューを表示して、全フォルダーを開く、全フォルダーを閉じるなどの操作ができます。

10 検索ボックス

インポート元のデータを名前で検索します。

エディター設定

MOTIF-RACK XSエディター VSTの設定を行ないます。画面上のすべての設定が済んだら、[OK]ボタンをクリックします。



① [×](終了)ボタン

設定を反映せずに終了します。[Cancel]ボタン(⑭)と同じです。

② [mLAN/1394]/[USB]チェックボックス

MOTIF-RACK XS本体と通信するMIDIポートの種類を選択します。

③ [Detail] (ディテール)ボタン

[mLAN/1394]/[USB]チェックボックス(②)でUSB接続を選択した場合、[Detail]ボタンをOnにすることにより、エディターが使用するMIDI入出力ポートを個別に設定できます。ポート名をコンピューター上やDAWアプリケーション上などで変更した場合は、この設定を行なう必要があります。ポート名を変更していない場合は、[Detail]ボタンはOffのままです。

④ MIDI

MOTIF-RACK XS本体と通信するMIDIポートを選択します。

USB接続の場合で[Detail]ボタン(③)をOffに設定している場合、左上の欄で「Yamaha USB 0」や「MOTIF-RACK XS-1(2,3,4)」などと表示されたMOTIF-RACK XSのポートを設定してください。USB接続の場合で[Detail]ボタン(③)をOnに設定している場合、MIDI InはMOTIF-RACK XSのポート4を、MIDI OutはMOTIF-RACK XSのポート1とポート4を選びます。IEEE 1394ケーブルで接続している場合、上側の欄はMIDIポートの設定、下側の欄はmLAN Deviceの設定になります。mLAN Deviceの設定では、MOTIF-RACK XSの機種名を選択し、MIDIポートの設定では、IEEE 1394ケーブルで接続しているときに設定したMOTIF-RACK XSのMIDIポートを選択してください。

NOTE ポート名の先頭に「!」マークが表示される場合があります。これはエディターで前回使用したポートが見つからない、またはエディターで必要となるポートが一部しか設定されていないことを示しています。ホストアプリケーションでのMIDIポート設定を確認してください。

NOTE ここでの設定とは別に、あらかじめDAWアプリケーション側のポート設定をする必要があります。詳しくは、DAWアプリケーションの取扱説明書をご参照ください。

NOTE ここでのポートの設定とは別に、MOTIF-RACK XS本体側もMIDIメッセージの入出力の設定をUSB接続にするか、IEEE 1394ケーブルを使った接続にするか、エディターと合わせる必要があります。MOTIF-RACK XSのユーティリティーモードのMIDIに関する設定をする画面で設定してください。詳しくはMOTIF-RACK XS本体の取扱説明書をご参照ください。

⑤ Device No. (デバイスナンバー)

MOTIF-RACK XS本体のユーティリティーモードで設定したDevice No.と同じ番号を設定します。本体のDevice No.の設定が「All」のときは、「1」を設定してください。

⑥ Auto Sync Setting (オートシンク セットアップ)

エディターをOFFLINE状態からONLINE状態に切り替えるときの、MOTIF-RACK XS本体とのデータ同期の方法を設定します。実際の同期は、[OFFLINE]ボタンをクリックしたときやMOTIF-RACK XSエディター VSTを起動したとき、新しいファイルを開いたときなどに自動的に表示されるAuto Sync (オートシンク)画面上で行なわれます。

Global (グローバル)

グローバルデータ(3ページ)を同期させるかどうか、および同期の方向(どちらの状態に合わせるか)を設定します。

Current (カレント)

カレントデータ(3ページ)を同期させるかどうか、および同期の方向(どちらの状態に合わせるか)を設定します。

Voice (ボイス)

ユーザーボイスデータ(3ページ)を同期させるかどうか、および同期の方向(どちらの状態に合わせるか)を設定します。

Auto Start (オートスタート)

Onに設定すると、下記条件でAuto Sync (オートシンク)画面が開いたときに、データ同期が自動的に開始されます。

- MOTIF-RACK XS本体ユーティリティーモードでのMIDI IN/OUT設定やコンピューター上でのポート設定、ケーブルによる接続が正しく行なわれている状態で、MOTIF-RACK XSエディター VST画面上の[OFFLINE]ボタンをクリックしたとき
- ケーブル接続が正しく行なわれている状態で、MOTIF-RACK XS本体やコンピューター上での設定が、正しくない状態から正しい状態に変更されたとき
- MOTIF-RACK XS本体やコンピューター上での設定が正しく行なわれている状態で、ケーブル接続が正しくない状態から正しい状態に変更されたとき
- MOTIF-RACK XS本体やコンピューター上での設定が正しく行なわれている状態で、MOTIF-RACK XSエディター VSTを起動したとき

NOTE Auto Sync画面(53ページ)でも、Auto Sync Setting (オートシンクセットアップ)の設定ができます。ここでのAuto Sync Settingの設定と連動しています。



Auto Startをオンにすると、決められたタイミング(53ページ)でデータ同期が自動的に開始されるため、受信する側で選択中のデータは、上書きされて消えてしまいます。大切なデータは、コンピューター上でファイルとして保存するか、MOTIF-RACK XS本体に保存しておきましょう。

⑦ Knob Guide (ノブガイド)

ノブを操作中にガイドを表示するかどうかを設定します。



Knob Guide: On



Knob Guide: Off

⑧ Knob Mouse Control (ノブマウス コントロール)

右図のようなノブの操作方法を設定します。



Circular (サーキュラー)

ノブ操作エリア内のどこをクリックしても、数値がクリックした場所にジャンプします。また、そこからノブの形にそって円を描くようにドラッグすることにより、数値をコントロールします。

Relative Circular (リレーティブ サーキュラー)

クリックしてもジャンプせず、現在の値からノブの形にそって円を描くようにドラッグすることにより、数値をコントロールします。

Linear (リニア)

ノブ操作エリアでドラッグするとマウスカーソルが消え、上、または右に移動すると値が増え、下または左に移動すると値が減ります。

9 Slider Mouse Control (スライダーマウス コントロール)

右図のようなスライダーの操作方法を設定します。

**Jump (ジャンプ)**

つまみ以外のスライダーバー上をクリックすると、クリックした位置につまみがジャンプします。

Touch (タッチ)

つまみをドラッグすることによりスライダーを動かします。つまみ以外のスライダーバー上をクリックしてもつまみは移動しません。

Ramp (ランプ)

つまみ以外のスライダーバー上をクリックすると、クリックしている間だけつまみが移動します。

Relative (リレーティブ)

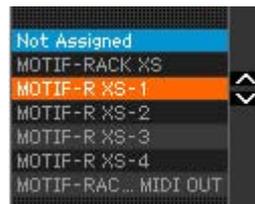
つまみ以外のスライダーバー上をドラッグするとマウスカーソルが消え、左右に動かすことにより数値をコントロールします。現在の値から相対的に移動します。

10 Keyboard Velocity (キーボードベロシティ)

鍵盤イラスト(35ページ)をクリックしたときに出力される、MIDIノートのベロシティを設定します。[Fix]をオンにした場合、ベロシティは一定の値に固定されます。固定されるベロシティ値は、[Fix]の横の数値ボックスで設定できます。また、[Free]をオンにした場合、クリックする鍵盤の上下の位置によって、ベロシティの値は変更されます。下の位置をクリックするほど値は大きくなります。

11 Inc/Dec Action (インク/デックアクション)

下図のようなパラメーターボックスにある[▲]/[▼]/[▲]/[▼]ボタンの動作を設定します。

**Inc/Inc:**

[▲]は数値の1つ増加、[▲]は1つ下の項目への移動、としてそれぞれ動作します。

Inc/Dec:

[▲]は数値の1つ増加、[▲]は1つ上の項目への移動、としてそれぞれ動作します。

Dec/Inc:

[▲]は数値の1つ減少、[▲]は1つ下の項目への移動、としてそれぞれ動作します。

Dec/Dec :

[▲]は数値の1つ減少、[▲]は1つ上の項目への移動、としてそれぞれ動作します。

12 Startup Mode (スタートアップモード)

エディターを新規で起動したときのモードを設定します。

Voice (ボイス)

エディターがボイスモードで起動します。

Multi (マルチ)

エディターがマルチモードで起動します。

13 [OK]ボタン

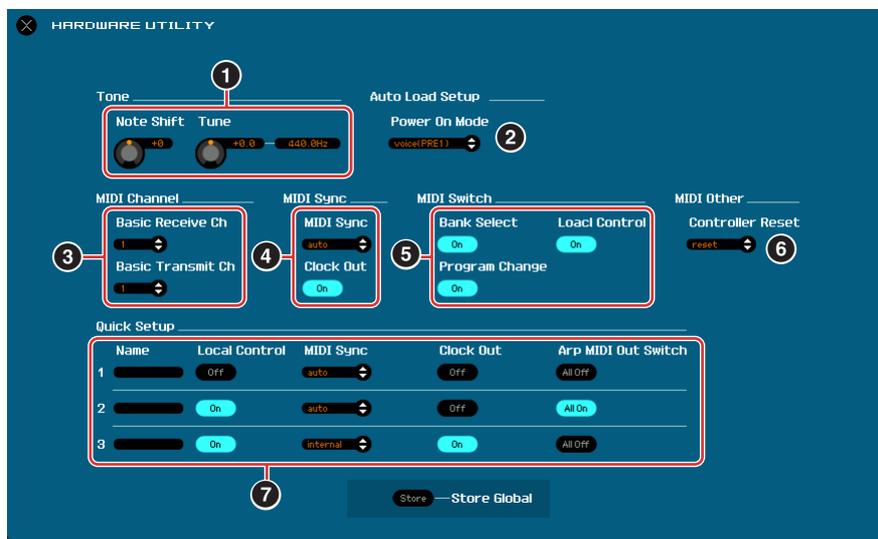
設定を反映して終了します。

14 [Cancel](キャンセル)ボタン

設定を反映せずに終了します。[×](終了)ボタン(1)と同じです。

本体ユーティリティー設定

このメニューを選んで呼び出されるHARDWARE UTILITY (ハードウェアユーティリティー)画面上で、MOTIF-RACK XS本体のユーティリティーモードにおける設定を行ないます。画面上に表示されている各パラメーターをエディットすることで、MOTIF-RACK XS本体の該当パラメーターも同期して値が変更されます。画面下の[Store]をクリックすることで、変更された値がグローバルデータとしてストア(保存)されます。



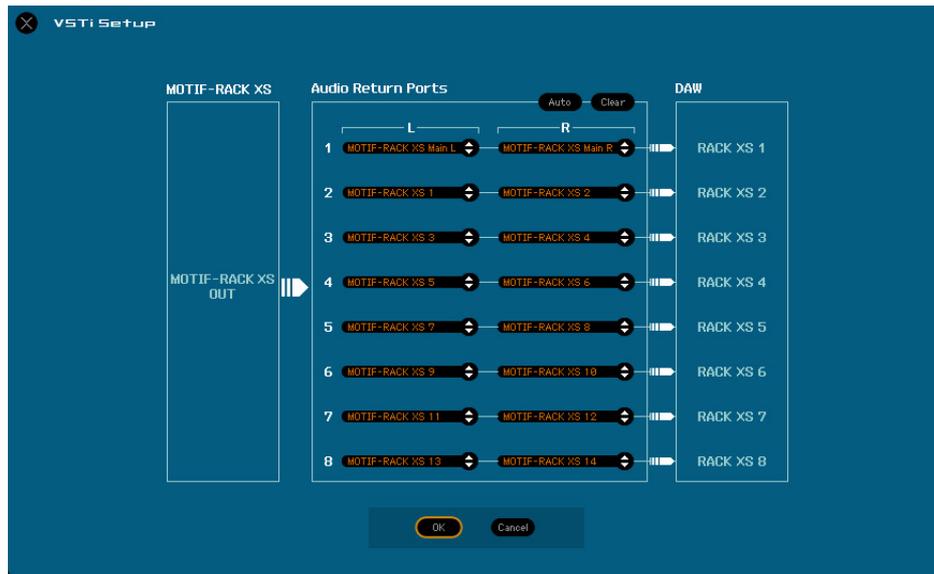
MOTIF-RACK XSエディター-VST(上記画面)	MOTIF-RACK XS本体	
① Tone	Note Shift	[UTILITY] → General → Note Shift
	Tune	[UTILITY] → General → Tune
② Auto Load Setup	Power On Mode	[UTILITY] → General → Power On Mode
③ MIDI Channel	Basic Receive Ch	[VOICE] → [UTILITY] → Voice MIDI → Receive Ch
	Basic Transmit Ch	[VOICE] → [UTILITY] → Voice MIDI → Transmit Ch
④ MIDI Sync	MIDI Sync	[UTILITY] → MIDI → MIDI Sync
	Clock Out	[UTILITY] → MIDI → Clock Out
⑤ MIDI Switch	Bank Select	[UTILITY] → MIDI → Bank Select Sw
	Program Change	[UTILITY] → MIDI → Prg Change Sw
	Local Control	[UTILITY] → MIDI → Local Control
⑥ MIDI Other	Controller Reset	[UTILITY] → MIDI → Controller Reset
⑦ Quick Setup	1、2、3	[UTILITY] → MIDI → Quick Setup

VSTi設定

このメニューを選んで呼び出されるVSTi Setup (VSTi設定)画面上で、MOTIF-RACK XS本体からのオーディオ信号をどのオーディオポート経由でDAWアプリケーションに送信するかを設定します。

IEEE1394 (FireWire)ケーブルでコンピューターと接続している場合は、AUTOボタンをクリックすると自動的にオーディオポートを設定できます。Clear (クリア)ボタンをクリックすると、すべてのオーディオポートが未接続になります。

USBケーブルでコンピューターと接続している場合は、MOTIF-RACK XSとオーディオ接続しているオーディオインターフェースのオーディオ入力ポートを選択します。



NOTE MOTIF-RACK XSエディター VST上でオーディオ設定を行っていない場合や、オーディオドライバーがコンピューターにインストールされていない場合は、MOTIF-RACK XSエディター VST上でエラーメッセージが表示されます。MOTIF-RACK XSをオーディオ接続しているオーディオポートを必ず設定してください。オーディオポートを設定していない状態では、下記の機能が制限されます。

- オートメーション
- 鍵盤イラスト(35ページ)の鍵盤動作

すべての機能を最大限に活用するためには、オーディオポートを必ず設定してください。

[編集]メニュー

ボイスモードの場合			マルチモードの場合		
編集(E)	バルク(B)	ヘルプ(H)	編集(E)	バルク(B)	ヘルプ(H)
元に戻す(U)		Ctrl+Z	元に戻す(U)		Ctrl+Z
やり直し(R)		Ctrl+Y	やり直し(R)		Ctrl+Y
コピー(C)		Ctrl+O	コピー(C)		Ctrl+O
貼り付け(P)		Ctrl+V	貼り付け(P)		Ctrl+V
ボイスの初期化(I)		Del	ミキシングの初期化(I)		Ctrl+Del
グローバルのストア			パートボイスの初期化(I)		Del
ボイスのストア(S)			グローバルのストア		
<input type="checkbox"/> ボイスコンペア(V)		Ctrl+P	ミキシングのストア		
			ボイスのストア(S)		
			<input type="checkbox"/> ミキシングコンペア(M)		Ctrl+M
			<input type="checkbox"/> ボイスコンペア(V)		Ctrl+P

元に戻す

1つ前の操作を取り消します。取り消しできない場合は、メニュー項目がグレーになります。

やり直し

[元に戻す]を実行する前の状態に戻します。[元に戻す]を実行した数だけ[やり直し]できます。[やり直し]できないときは、メニュー項目がグレーになります。

コピー

選択している文字列、ボイスデータ、パラメーターをコピーします。コピーできないときは、メニュー項目がグレーになります。

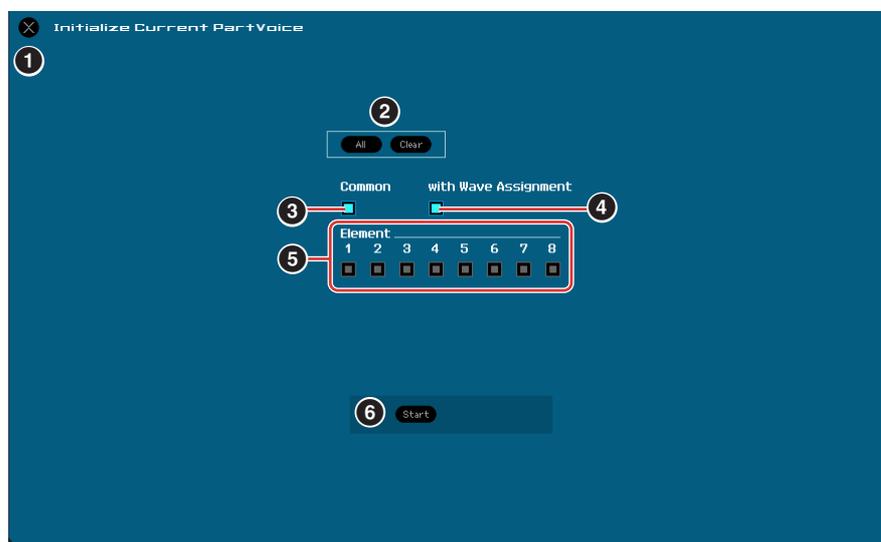
貼り付け

コピーした文字列、ボイスデータ、パラメーターを貼り付けます。貼り付けできないときは、メニュー項目がグレーになります。

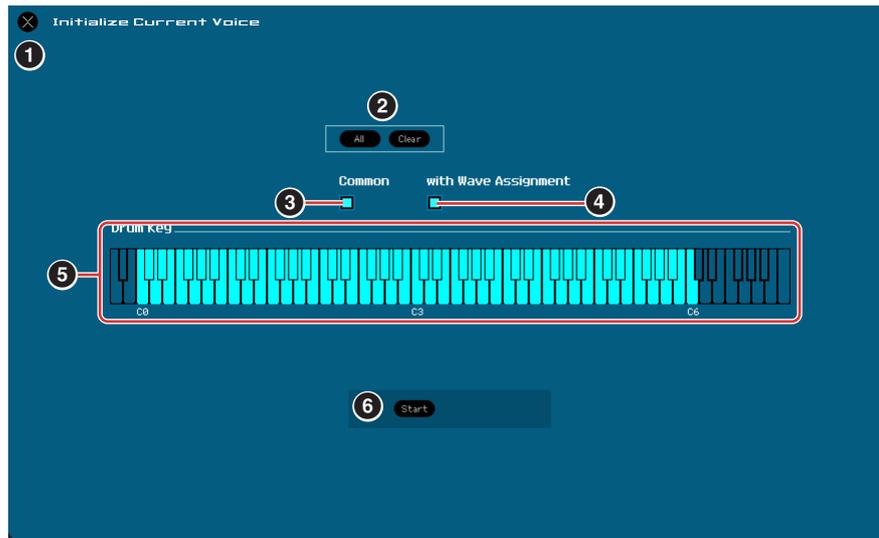
ボイスの初期化(ボイスモード)/パートボイスの初期化(マルチモード)

現在エディット中のボイスの初期化を行ないます。画面上のすべての設定をしたあと、[Start]ボタンをクリックすることで、初期化を実行します。

エディット中のボイスがノーマルボイスの場合



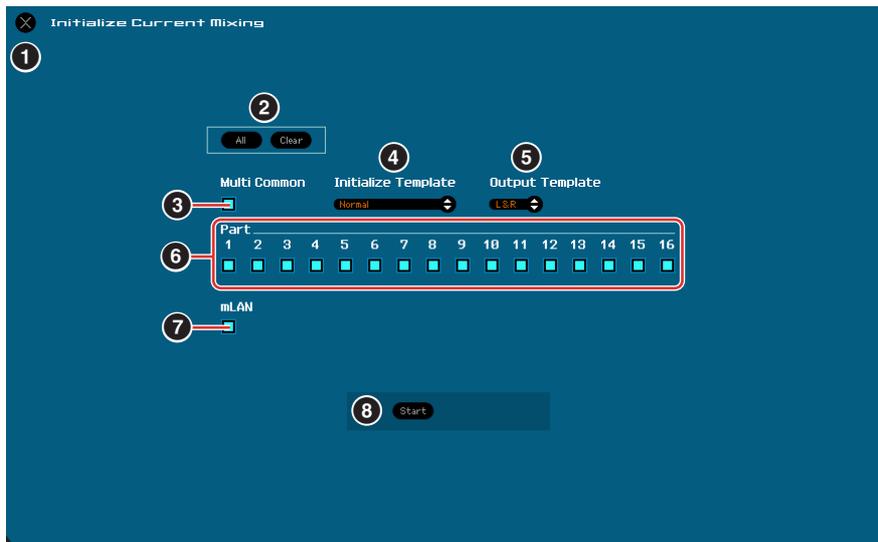
エディット中のボイスがドラムボイスの場合



- ① [×](終了)ボタン**
初期化を行わずに画面を閉じます。
- ② [All](オール)/[Clear](クリア)ボタン**
All: すべてのパラメーターを初期化対象とします。
Clear: すべてのパラメーターを初期化対象から外します。
- ③ [Common](コモン)チェックボックス**
オンに設定すると、現在選択されているボイスの全コモンパラメーター (ボイスモードの場合はVoice Common、マルチモードの場合はPart Common)を初期化します。
- ④ with Wave Assignment**
オンに設定すると、選択したエレメントに割り当てられていたウェーブフォームの設定を初期化します。
- ⑤ Element (エレメント) [1]~[8] または Drum Key (ドラムキー) C0~C6**
エディット中のボイスがノーマルボイスの場合、ここでオンに設定したエレメントの全パラメーターを初期化します。エディット中のボイスがドラムボイスの場合、ここでオンに設定したドラムキーの全パラメーターを初期化します。
- ⑥ [Start] (スタート)ボタン**
設定したパラメーターを初期化して終了します。

ミキシングの初期化(マルチモードのみ)

ミキシングの初期化を行ないます。画面上のすべての設定をしたあと、[OK]ボタンをクリックすることで、初期化を実行します。



- ① **[×](終了)ボタン**
初期化を行なわずに画面を閉じます。
- ② **[All](オール)/[Clear](クリア)ボタン**
All: すべてのパラメーターを初期化対象とします。
Clear: すべてのパラメーターを初期化対象から外します。
- ③ **[Multi Common](マルチコモン)チェックボックス**
オンに設定すると、Multi Common (マルチコモン)のすべてのパラメーターを初期化します。
- ④ **Initialize Template (イニシャライズテンプレート)**
初期化のテンプレートを選択します。
Normal: 通常の初期化を行ないます。
GM: GM(ジェネラルMIDI)対応の音源として初期化を行ないます。
Contemporary R&B ~ TurkishPop: 各タイトルの目的に沿った設定を行ないます。
- ⑤ **Output Template (アウトプットテンプレート)**
マルチモードでの各パートの出力先を、「L&R」か「mLAN」のどちらかに設定します。
- ⑥ **Part [1]~[16] (パート[1]~[16])チェックボックス**
オンに設定したパートのすべてのパラメーターを初期化します。
- ⑦ **[mLAN]チェックボックス**
コモンエディットのmLANパートに関する設定を初期化します。
- ⑧ **[Start]ボタン**
設定したパラメーターを初期化して終了します。

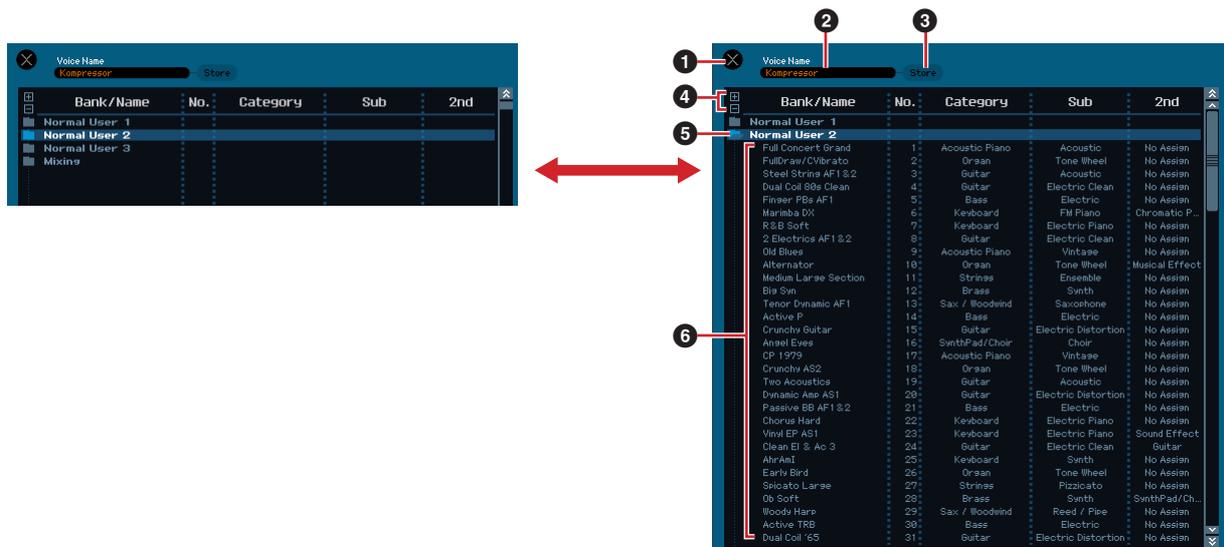
グローバルのストア

グローバルデータのストア(保存)を行いません。このメニューを選択しただけで、グローバルのストアは実行されます。グローバルデータは、エディター内ではなくMOTIF-RACK XS本体内部のメモリーにのみストア(保存)されます。

ボイスのストア

このメニューを選択することで呼び出される画面上で、現在エディット中のボイスを保存(ストア)します。ボイスモードでは現在エディット中のボイスを、マルチモードでは現在選択されているパートに割り当てられているボイスを、それぞれ保存(ストア)します。

保存したいバンクフォルダー (5)と、そのバンク内のボイスナンバーを選択し、保存するボイス名を入力します。最後に[Store]ボタンをクリックし、編集したボイスをユーザーボイス(ボイスモード/マルチモード)またはミキシングボイス(マルチモードのみ)として保存します。



1 [X](終了)ボタン

ストア実行せずにこの画面を閉じます。

2 Voice Name (ボイスネーム)

保存するボイスの名前を表示/入力します。

3 [Store](ストア)ボタン

クリックすると選択した場所にボイスを保存します。



注意 他のパラメーターと同じように、エディターがONLINE (オンライン)の状態であれば、ボイスデータもMOTIF-RACK XS 本体とエディターとで同期しています。したがって、ここでストアを実行することにより、MOTIF-RACK XS本体のユーザーボイスバンクまたはミキシングボイスバンク内の保存先に該当するボイスも同様に変更されることになります。大切なボイスデータが消去されることがないようにご注意ください。

4 [+]/[-]ボタン

[+]ボタンをクリックすると、バンクフォルダー (5)の内容をすべて表示します。[-]ボタンをクリックすると、バンクフォルダー (5)の内容をすべて隠します。

⑤ バンクフォルダー

ここでは、ボイスの保存先となる以下のボイスバンクを表示します。

- Normal User 1 (ノーマルユーザー 1)
- Normal User 2 (ノーマルユーザー 2)
- Normal User 3 (ノーマルユーザー 3)
- Drum User (ドラムユーザー)
- Mixing (ミキシング)

これらのバンクをクリックすると、上図のようにそのバンク内のボイスリストを表示したり隠したりします。

なお、現在選択されているモードやエディット中のボイスの種類により、表示されるバンクが違います。Mixing (ミキシング)バンクはマルチモードの場合のみ表示されます。また現在エディット中のボイスがノーマルボイスの場合はDrum User (ドラムユーザー)バンクが表示されません。同様に、現在エディット中のボイスがドラムボイスの場合はNormal User 1~3は表示されません。

⑥ ボイスリスト

選択しているバンクのボイスリストを表示します。ここで、保存したいボイスナンバーを選択します。ここでWindowsの場合は右クリック、Macintoshの場合は<control>キー+クリックすると、「全フォルダーを開く」、「全フォルダーを閉じる」というメニューを選択できます。

ミキシングのストア(マルチモードのみ)

マルチモードでのミキシング設定のストア(保存)を行ないます。このメニューを選択しただけで、ミキシングのストアは実行され、MOTIF-RACK XS本体で現在選択されているマルチに設定が上書保存されます。

ボイスコンペア

エディット中のボイスを、一時的にエディット前のボイスに戻します。エディット前後の音を聞き比べることができます。この状態では、パラメーターはエディットできなくなります。もう一度選択すると元の状態に戻ります。

NOTE MOTIF-RACK XS本体のコンペア機能とは連動していません。

ミキシングコンペア

エディット中のミキシングを、一時的にエディット前のミキシングに戻します。エディット前後の音を聞き比べることができます。この状態では、パラメーターはエディットできなくなります。もう一度選択すると元の状態に戻ります。

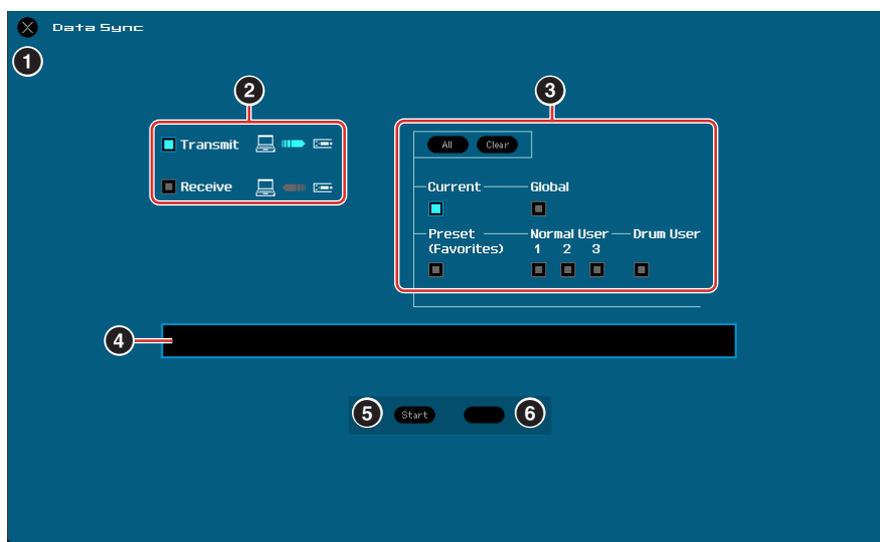
NOTE MOTIF-RACK XS本体のコンペア機能とは連動していません。

[バルク]メニュー



データ同期

MOTIF-RACK XS本体とバルクデータの送受信を行ないます。



① [×](終了)ボタン

データ同期を行なわずに画面を閉じます。

② [Transmit](トランスミット)/[Receive](レシーブ)チェックボックス

データ送受信の方向を設定します。

[Transmit]チェックボックス: MOTIF-RACK XSエディター VSTからMOTIF-RACK XS本体へバルクデータを送信します。

[Receive]チェックボックス: MOTIF-RACK XS本体からMOTIF-RACK XSエディター VSTへ送られてくるバルクデータを受信します。

③ 送受信するデータの種類

送受信するデータをタイプ別に設定します。[All]ボタンをクリックすると全タイプをオンにし、[Clear]ボタンをクリックすると全タイプをオフにします。

Current

カレントデータ(現在のエディット状態)を送受信します。

Global

グローバルデータを送受信します。

Preset (Favorites)

プリセットボイスのFavorites (フェーバリッツ)チェックに関する情報を送受信します。

Normal User 1~3

Normal User Bank 1~3のボイスデータを送受信します。

Drum User

Drum Userのボイスデータを送受信します。

④ プログレスバー

バルクデータの送受信状態を確認できます。

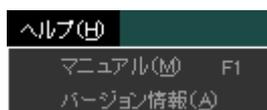
⑤ [Start](スタート)ボタン

バルクデータの送受信を開始します。

⑥ [Stop](ストップ)ボタン

バルクデータの送受信中にのみ表示されます。クリックすると、その時点でバルク送受信をストップします。

[ヘルプ]メニュー



マニュアル

本書を開きます。Adobe® ReaderなどのPDFファイル対応アプリケーションが起動します。

バージョン情報

MOTIF-RACK XSエディター VSTのバージョン情報が表示されます。

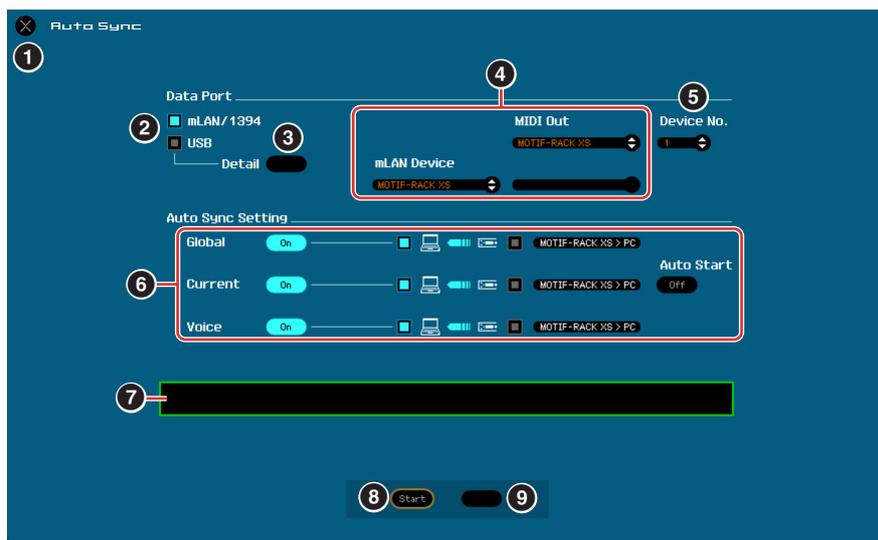
Auto Sync (オートシンク)画面

この画面は、エディターをOFFLINE (オフライン=エディターとMOTIF-RACK XS本体の設定が連動しない状態)からONLINE (オンライン=エディターとMOTIF-RACK XS本体の設定が互いに連動する状態)に切り替えるための画面です。エディターがOFFLINE状態のときは、画面上の[OFFLINE]ボタンをクリックすることで呼び出せます。その他にも、下記操作をした場合に自動的に呼び出されます。

- エディター上でファイルを開いたとき
- エディター上ファイルメニューの「新規作成」で新しいファイルを作ったとき
- ONLINE (オンライン)の状態、モードを切り替えたとき
- ONLINEの状態、MOTIF-RACK XS本体のモードを切り替えたとき
- ケーブル接続が正しく行なわれている状態で、MOTIF-RACK XS本体やコンピューター上での設定が、正しくない状態から正しい状態に変更されたとき
- MOTIF-RACK XS本体やコンピューター上での設定が正しく行なわれている状態で、ケーブル接続が正しくない状態から正しい状態に変更されたとき

NOTE Auto Sync (オートシンク)画面内にあるAuto Start (オートスタート)をOnに設定してあると、Auto Sync画面が開いただけでデータ同期が始まる場合があります。詳細は、[42ページ](#)をご参照ください。

Auto Sync (オートシンク)画面では、Data Port (データポート)設定を正しく行なったあと、[Start](スタート)をクリックすることで、MOTIF-RACK XSエディター VSTとMOTIF-RACK XS本体のデータ同期を行ないます。データ同期が終了すると自動的に画面が閉じられ、エディターはONLINE (オンライン)の状態になります。



1 [×](終了)ボタン

ONLINE状態への切り替えを行わずに終了します。

2 [mLAN1394]/[USB]チェックボックス

3 [Detail]ボタン

4 Port

5 Device No.

6 Auto Sync Setting

2～6は、エディター設定画面の同名の設定と同じ機能です。詳しくは[41～42ページ](#)の2～6をご覧ください。

7 プログレスバー

8 [Start]ボタン

9 [Stop]ボタン

7～9はデータ同期画面の同名の設定と同じ機能です。詳しくは[52ページ](#)の4～6をご覧ください。

トラブルシューティング

「音が出ない」、「正常に動作しない」などといった場合には、まずMOTIF-RACK XSとコンピューターとの接続を確認したあと、以下の項目をチェックしてください。

コントロールスライダーやチャンネルノブを操作しても音色(音の間こえ方)が変わらない。

- エディターはONLINEになっていますか？
- [ONLINE]ボタンの左側のインジケータは点灯していますか？
点灯していない場合、通信設定に問題があるかもしれません。MOTIF-RACK XSエディター VSTまたはDAWアプリケーションのMIDIポート設定(41ページ)や、MOTIF-RACK XS本体側のMIDI通信設定(ユーティリティーモードのMIDI画面の設定)、またはケーブルの接続が正しく行なわれているかを確認してください。
- エディター設定のMIDIポート設定やDevice No.が正しく設定されていますか？(41ページ)

バルクデータの送受信ができない。

- 上記と同じ点(ONLINE表示、MIDIポート設定など)を確認してください。

エディター画面で選択したいポート名が表示されない。

- エディター設定画面のMIDIポートは、DAWアプリケーションで設定されているMIDIポートの中から選択できます。DAWアプリケーションでのMIDIポート設定を確認してください。
- ポート名の先頭に「!」マークが表示される場合があります。これはエディターで前回使用したポートが見つからない、またはエディターで必要となるポートが一部しか設定されていないことを示しています。DAWアプリケーションでのMIDIポート設定を確認してください。

No Audio Port Connectionというエラーメッセージが表示される

- VSTi設定(45ページ)でMOTIF-RACK XSをオーディオ結線しているオーディオポートを設定してください。

DAWアプリケーションのオーディオミキサーに、MOTIF-RACK XSの音が入力されない

- VSTi設定(45ページ)でMOTIF-RACK XSとオーディオ結線しているオーディオポートを設定してください。
- IEEE1394 (FireWire)ケーブルで接続している場合、MOTIF-RACK XS本体の設定(ユーティリティーモード → General → IEEE1394 Driver)が、使用しているドライバーと一致しているかを確認してください。

VSTi設定画面で、[Auto]ボタンをクリックしても、前回使用していたオーディオポートが表示されない

- DAWアプリケーションの[デバイス]メニュー → [デバイス設定]の[VSTオーディオシステム]で前回使用していたオーディオポートの[表示]にチェックが外れているのが原因です。表示させたいポートにチェックを入れてください。

MOTIF-RACK XSからDAWアプリケーションに対してオーディオがマルチポートで出力されない

MOTIF-RACK XSエディター VSTをVSTインストゥルメントトラックに追加してご使用ください。

VSTインストゥルメントトラックで、「全出力を有効」にしてください(5ページ)。